

阪大NOW

地域に生き世界に伸びる

No.90
2006

6月号

トピックス

第1回 大阪大学ホームカミングデイ開催

クローズアップ

先端福祉社会の実現

—臨床医工学融合研究教育センター—

ナウスベシャル

「阪大坂」の古墳



大阪大学広報誌

2006 6月号 No. 90

目 次

トピックス	2
クローズアップ	4
役員室だより	8
ナウススペシャル	14
キャンパスニュース	16
記念講義	32
表 彰 等	35
人 事	40
名誉教授リレー随想	48
訃 報	50
インフォメーション	52
インタビュー	60
海外レポート	62
クラブ&サークル紹介	66
ガイドマップ	67
交流協定大学紹介	68



表紙写真：サイバーメディアセンター(豊中)
撮 影：理学研究科助教授 山本 仁
表紙デザイン：株式会社ココティエ

第1回大阪大学ホームカミ



大阪大学の近況を報告する宮原秀夫総長



「同窓生の結束が大事」と話す熊谷信昭同窓会連合会会長



宇宙飛行士 向井千秋さん

ホームカミングデー開催

- 多数の同窓生らが「母校愛」を再確認 -



豊中キャンパス・イ号館講堂における記念式典

4月30日(日)に本学豊中キャンパスにおいて、創立記念日に開催される「いちよう祭」に合わせて、「第1回大阪大学ホームカミングデー」が開催されました。

卒業生や教職員OBが年に一度母校のキャンパスに集い、旧交を温め、進化し続ける「今」の大阪大学の姿を見ていただき、今後の教育・研究・社会貢献活動に一層の関心を持ってもらうことを目的に、大阪大学同窓会連合会の協賛を得て開催されました。

詳細はキャンパスニュース(25ページ)をご覧ください。

宇宙飛行士 向井千秋さん来学 公開講演会「宇宙への挑戦」

第27回国際重力生理学会の開催(平成18年4月23日(日)~28日(金):医学部銀杏会館)に際し、翌29日(土)にコンベンションセンターMOホールにおいて、向井千秋・宇宙航空研究開発機構(JAXA)宇宙飛行士(フランスの国際宇宙大学教授)らによる“宇宙への挑戦”というテーマでの公開講演会が開催されました。

宮原秀夫総長の挨拶で幕を開けた本講演会では、JAXA宇宙実証研究共同センター・橋本英一氏による「小さい衛星で大阪を元気に」、三菱重工業㈱神戸造船所・落合俊昌氏による「宇宙環境利用への新たな挑戦とその実現に向けて」という講演が行われました。

続いて、向井飛行士の講演では、医学者・研究者として活躍されていたご自身が、宇宙飛行士を目指された当時の話や、実際の宇宙飛行体験、今後の解決が望まれるテーマに関するもの等多岐にわたり、非常にわかりやすく話され、大勢の参加者からの多数の質問等にも丁寧に応答していただき、予定を1時間以上もオーバーするほどの大盛況でした。

また、JAXAや三菱重工・神戸造船所によるスペースシャトル、H-IIAロケット、宇宙服や生物衛星へのマウス搭載装置等の展示も行なわれ、会場を訪れた子供達も直接それらに触れ、目を輝かしながら、宇宙を身近に感じることができたひと時でした。



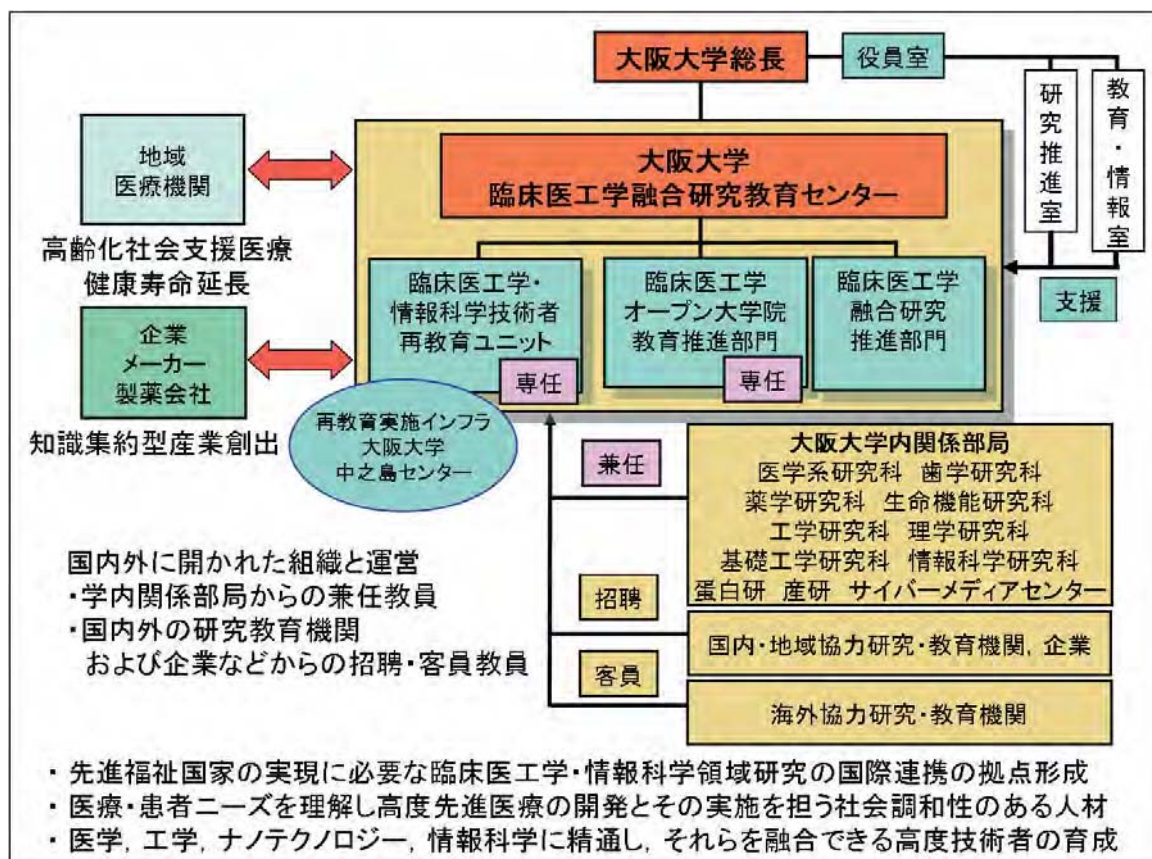
先端福祉社会の実現

- 臨床医学・工学・情報科学の融合研究と教育による貢献 -

臨床医工学融合研究教育センター長 倉 智 嘉 久

■ 臨床医工学融合研究教育センター (MEIセンター) の設置

安定成長の段階に入った21世紀の我が国にとって、成熟した先進国家としての真の福祉社会を築くこと、また、ひとにやさしい高度医療を発展・普及させ、安全・安心な社会を築くことは、国家としての最重要課題の一つです。急速に発展している情報科学やナノテクノロジー、高度先端工学技術などと医学・医療を融合することは、高度医療の発展と社会への普及のために不可欠です。このような臨床医学、工学、情報科学の融合領域の発展を担うのは、先端の工学・情報科学と医学・医療の双方に充分精通し、患者ニーズ、社会ニーズを理解した、高い意識と社会協調性をもつ医師・技術者だと考えられます。しかしながら、現在、こうした人材は稀少で、大学として重点的に人材を育成することが求められています。こうした人材の育成は、医療・福祉の充実ばかりでなく、臨床医工学・情報科学分野が日本発の新規産業として発展できる社会基盤を築くことにつながることを期待されます。大阪大学臨床医工学融合研究教育センターは、新規融合領域である「臨床医工学・情報科学分野」を開拓・確立し、その研究成果の社会への普及を担う人材、そしてこの領域の将来を担う指導者となる人材を育成することを目的として平成16年11月に大阪大学の法人化後初の学内センターとして設置されました(組織図参照)。臨床医工学融合研究教育センターの英語名称は、“The Center for Advanced Medical Engineering and Informatics”で、略してMEIセンター(メイセンター)と呼びます。



MEIセンターの組織図とミッション

■ 教育プログラム(大学院博士前期課程・社会人再教育)

MEI センター設立の目的を達成するために、大阪大学の理科学系研究科すべての大学院博士前期課程学生を対象とした部局横断型「臨床医工学・情報科学融合領域の教育プログラム」を昨年度平成 17 年 4 月から開始しました。このプログラムは、具体的には、

- ・ バイオメディカルインフォマティクスコース
- ・ バイオマテリアル学コース
- ・ 高度診断治療工学コース
- ・ 共通科目 医工融合領域の倫理と知財

という 3 つのコースおよび 1 群の共通科目から構成されています。

試行期間であった昨年度は、全学から 230 名余りの大学院生が同プログラムを履修しました。平成 18 年度からは文部科学省の特別教育研究経費(教育改革)を受け、当センター独自の教育科目・実習を充実させるなど、センター専任の特任教員を中心とし、部局横断的な多数の兼任教員の協力のもと、人材育成を強力に推進しています。

受講生にとって、自身の専門とは異なる分野の、しかも大学院レベルの講義を理解することは容易なことではありません。しかし、そうした困難を経験することが、私たちが目指す人材育成の第一歩だと考えています。学問に対して真摯に努力する大学院生をサポートするために、その分野の研究が具体的にイメージでき、体験できる演習・実習を開講しています。また本年度からは、医歯薬保健系の大学院生のための「医用工学・情報工学入門」、理工学系大学院生のための「医学入門」を土曜日のほぼ終日を使って実施しています。一流の医学あるいは工学研究者による入門講座は、我田引水ではありますが、一見の価値があります。

今後は、このプログラムを基礎として、地域の他教育機関の博士前期課程学生も対象とした地域協力型教育プログラムを開発していく予定です。また、当該領域の指導者となる人材を育成するために、この教育プログラムを修了し博士後期課程へと進学する学生を対象とした実践型教育プログラムの開発も計画中です。この後期課程実践型教育では、MEI センターで推進する目的達成型研究開発への博士後期課程学生の参加、企業の教育への共同参画を実現するとともに、海外の研究教育機関との連携を通じて、国際的視野をもった人材の育成を実践していく予定です。これらの総合的プログラムを通じて、大学院前期および後期課程の学生を対象とした「臨床医工学・情報科学融合領域」のシームレスな包括的人材育成教育プログラムを皆さんの積極的な協力を得ながら開発していく予定です。

MEI センターは、平成 17 年度から文部科学省科学技術振興調整費(人材育成)の支援のもとで、「臨床医工学・情報科学技術者再教育ユニット」を構成し、臨床医工学・情報科学融合領域における社会人再教育も実施しています。大学院教育プログラムとほぼ対応した講義・実習・演習を、このプログラムの専任教員、および民間企業の研究者も含めた多彩な講師陣によって、年間を通じてほぼ毎週末に大阪大学中之島センター、および吹田・豊中キャンパスにおいて実施しています。受講者の所属は、製薬会社、医療機器メーカーをはじめ、自動車、電機、繊維メーカーなど多業種に渡っており、広い意味で人間、生命・生体を対象とした分野の体系だった知識・技術の習得、および臨床現場体験に対するニーズの高さがうかがえます。大学院生も社会人再教育コースの受講が可能ですので、興味のある方は MEI センターのホームページにアクセスしてみてください。

なぜ、この新規融合分野において、このような総合的・包括的な人材を早急に育成する必要があるのでしょうか？ それは、冒頭にも申し上げたように、高齢社会の日本に、高度先進医療福祉社会を築くことが、私達にとって緊急課題だから



最先端医療(光トポグラフィーによる脳活動計測)の体験(社会人再教育)



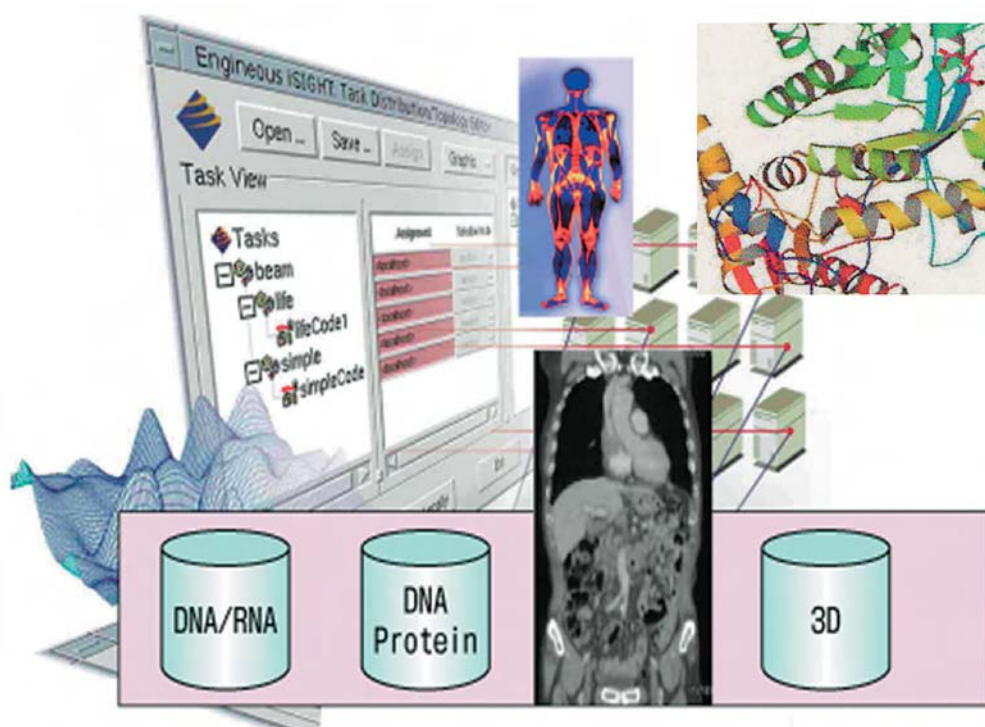
生体材料力学の実習(社会人再教育)

です。そして、この課題を達成するために忘れてならないことは、医学・医療技術がいかに先端的であっても、それが速やかかつ平等に広く社会へと普及しない限り先進医療福祉社会とは言えない、ということです。この点において、わが国は先進国の中でも大きく遅れをとっており、関連領域の開発研究はもとより人材育成が急務となっているのです。特に、この領域を推進する若手リーダー育成の遅れは、深刻な問題です。この緊急課題を克服するためには、臨床医工学・情報科学融合領域の人材育成を大阪大学内にとどまらず、地域教育機関、企業とタイアップしてより強力に推進していく必要があります。臨床医工学・情報科学融合領域は、従来の科学技術分野の枠を越えた、これからの高度医療実現と社会普及のために不可欠の全く新しい領域です。この新領域を推進・発展させるには、領域推進のリーダーとなる人材を育成することが最も効果的であり、このためには学生自らが積極的に目的達成型の研究開発プロジェクトに参加し、本格的な研究活動を実践する博士後期課程学生を対象とした実践的人材育成が必須です。臨床医工学・情報科学融合は極めて実学的な領域であり、博士前期課程の教育プログラムや社会人再教育において、実習・演習を重要視しているのも、ここにその理由があります。MEI センターが実施する教育が、単なる知識供与であっては、私達が目指す目的は達成できないと考えています。MEI センターの教育プログラムが、近い将来に本領域の研究、技術開発、新規事業の開拓を担う人材が広く社会に育つことに少しでも貢献できることを期待しています。

■ 臨床医工学・情報科学融合領域の研究開発

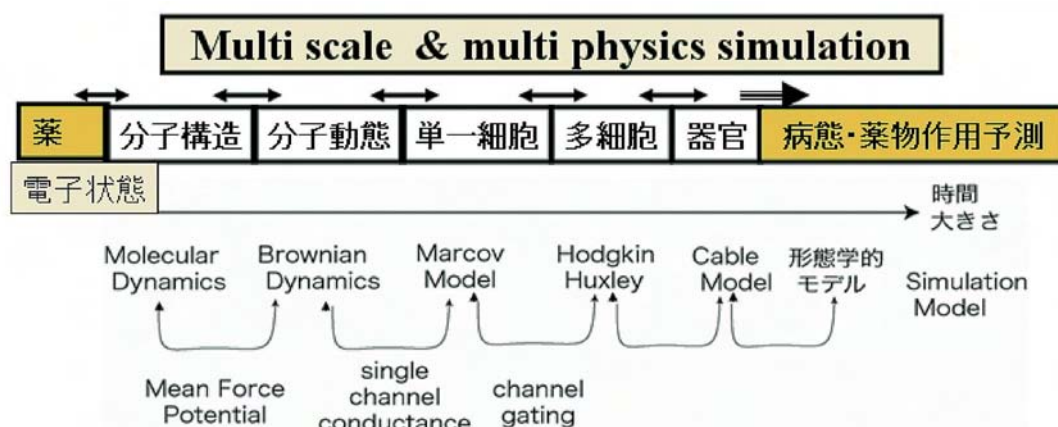
MEI センターを基盤として実施されている研究分野は非常に広範に及びますが、中でも「IT 支援医療のための融合領域科学の推進」を積極的に行っています。この研究は、主に次の3つのプロジェクトから構成されます。

- (1) 工学・情報科学基盤としての生命・医学データの体系化・モデル化・シミュレーションとIT支援医療に向けた医用ネットワーク基盤研究
- (2) 目的設定型研究：臨床プロセスを客観化する先進計測診断システムの研究開発（身体動態診断システムの開発、ナノ・光計測技術開発）
- (3) 目的設定型研究：高度医用データベースの研究開発（セマンティックウェブの開発、データグリッド技術の開発）

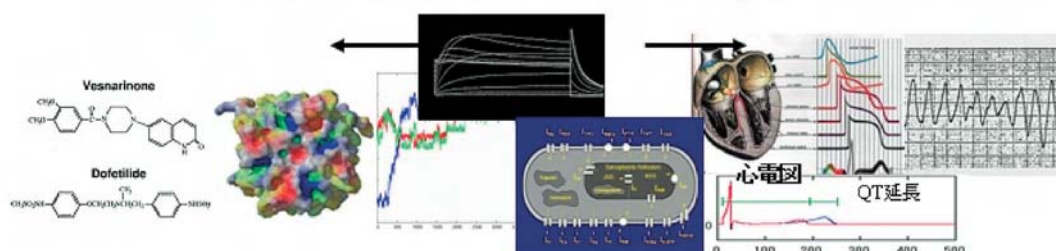


高度医用データベースの研究開発

これらの先端研究プロジェクトは、今後、医療系、電気系、情報系産業界の協力も得ながら、博士後期課程の実践的教育の推進と連動させ、その研究成果を医療と産業に直結させる戦略的システムの構築を目指しています。また、MEI センターは、英国オックスフォード大学、ニュージーランドオークランド大学、フランスニースの分子細胞薬理学研究所等から各国を代表する研究者を海外客員教授として正式に受け入れており、これらを基礎として国際連携による研究開発の推進と、それによる博士課程後期学生の実践的教育の展開を開始しています。



薬物の化学構造から心臓不整脈発生の危険性を予測する



生命・医学データの体系化・モデル化・シミュレーションの基盤研究

以上のように、大阪大学 MEI センターは、臨床医学における新しい高度診断システム、治療法や治療技術、治療薬の研究開発と、それに様々な形態で携わる人材の育成、およびそれを支えることができる戦略的システム（仕組み）の構築を加速し、人類が時空間的なバリアを越えて高度医療を享受できる真の福祉社会の確立に貢献することを目指しています。学生諸氏、教職員の皆さまのご理解とご協力なくしては、私達の目的を達成することはできません。よろしくお願いします。

MEI センター、および MEI センターの教育プログラムに関するより詳しい情報は、センターのホームページでご覧ください。

URL <http://www.mei.osaka-u.ac.jp>

役員室だより

2006.6 Vol.12

6月には、次年度概算要求及び前年度の業務実績報告書の提出があり、大学として大変重要な時期です。この号が出る頃には全学取りまとめの最終段階を迎え、執行部も毎日のように協議を重ねています。

平成19年度の概算要求においては、昨年同様厳しい財政状況の中、大学の自助努力が認められるものが重視され、新たに要望する事業の選定プロセスなど大学の取組状況が考慮されることから、昨年以上に真に必要なものを精選し要求していくこととしています。

また、施設整備費の要求においては、教育研究設備の計画的・継続的な充実のための設備マスタープランの策定が必須となっており、これについては総合計画室を中心に検討、策定してもらいました。

業務実績報告については、年度計画に記載した各事項の実施、達成状況はもちろんのこと、実施した結果どのような成果や効果があったかについての説明も求められています。このため、執行部はもとより各部局それぞれが立てた年度計画については、進捗状況の定期的な確認と実施後の検証についても留意いただき、当初の計画以上の実績が報告できるよう18年度計画の実施に向けても着実な努力をお願いします。

各室の検討状況

総合計画室

施設マネジメント委員会

「施設等の点検・評価の推進」

- ・スペースマネジメントの観点から各部局等の施設の点検調査を行った結果、使用しない機器、装置、書籍等が整理されていない状態の部屋が多数見られました。大阪大学の全ての施設は個人のもではなく大学の貴重な資源であるとの認識の下に、教育研究施設の一層の有効活用を推進するため、全部局でそれぞれ「室使用に係る基準」を策定することとしました。

「施設の維持管理の適切な実施」

- ・施設等維持管理に必要な「維持保全マニュアル」を作成して、各部局における適切な維持管理の徹底を図ることとしました。
- ・省エネルギー対策の推進を図るため、各部局単位で省エネルギー活動に責任を持つ組織の設置等を定め、省エネルギー計画を策定することとしました。

「構内交通安全対策」

- ・スピードの出し過ぎ等による交通事故の防止対策として、吹田キャンパスにおける幹線道路のハンプを整備しました。
- ・阪大キャンパスの車両の入構規制に関し、入構門の自動ゲート化の検討及び入構整理・警備業務の実施主体や運営方法等の見直しを行っています。

設備整備計画検討ワーキング

平成19年度概算要求における設備の要求とあわせて提出することとなっている「設備整備に関するマスタープラン」を策定しました。

なお、同マスタープランに基づく設備整備を実現するための新たな拠点として、「リユース基盤機器センター（仮称）」の設置が構想されており、今後、具体的な内容等について、研究推進室の下に設置検討ワーキングを設け検討することとしています。

多様な人材活用推進委員会の設置

本年4月から、総合計画室の下に新たに「多様な人材活用推進委員会」が設置されました。（設置の経緯については、阪大NOW4月号の役員室だよりに掲載。）

第1回の委員会では、検討課題に応じて、保育所関係WG、支援相談WG、啓発活動WGの3つのワーキングを組織し、それぞれ具体的な取組みの検討を進めていくこととしました。また、同委員会の検討結果等については、今後、専用ホームページを開設してお知らせしていくことも検討しています。

湯川記念室運営委員会

平成18年度の実施事業として、高校生を対象に昨年度実施し評判の高かった「最先端の物理を高校生に Saturday Afternoon Physics」や一般市民を対象とした「湯川記念講演会（第22回）」を実施することとしています。また、湯川秀樹博士生誕100年を記念した事業に関する企画についても検討しています。

・最先端の物理を高校生に Saturday Afternoon Physics 2006

日 時 10月21日(土)～11月25日(土)の毎週土曜日 会 場 基礎工学部シグマホール

・第22回湯川記念講演会

日 時 9月30日(土) 会 場 中之島センター

教育・情報室

入学記念講義「大阪大学の歴史」

4月に平成18年度の「入学記念講義」を開催し、宮原秀夫総長より「大阪大学の歴史」と題した講義をしていただきました。大阪大学の学生がこの大学で学ぶことの意義と誇りを実感できるように、そしてまた大阪大学の教育目標（教養・デザイン力・国際性）が学生諸君により深く浸透するようにと企画されたもので、受講した学生にはたいへんに好評でした。大学説明会、入試説明会等でも、今後、「大阪大学の現在」のみならず、輝ける「大阪大学の歴史」についてきちんと伝えていきたいと考えています。

「魅力ある大学院教育」イニシアティブ

平成18年度の「魅力ある大学院教育」イニシアティブには本学からは7研究科から13件申請し、うち以下の8件に関してヒアリングが実施されることになりました。6月のヒアリングを経て、採否が決定されます。ちなみに昨年度の総採択件数は97件で、うち本学の採択件数は全国最多の10件でした。

「統合的なデザイン力ある法政研究者養成」	法学研究科法学・政治学専攻
「実践型スーパークリエーター養成プログラム」	経済学研究科経営学系専攻
「国際公益セクターの政策エキスパート養成」	国際公共政策研究科国際公共政策専攻
「社会で活躍する理学人育成プログラム」	理学研究科物理学専攻
「生命先端工学国際創造教育プログラム」	工学研究科生命先端工学専攻
「アジア地域化学リーダー育成教育プログラム」	工学研究科応用化学専攻
「先端通信エキスパート養成プログラム」	工学研究科電気電子情報工学専攻
「医科学修士における社会医学コースの設立」	医学系研究科医科学専攻

TAアンケート調査

現在、教育・情報室では、ティーチング・アシスタント（TA）の業務内容と運用方式についての抜本的な見直しをおこなっておりますが、検討にあたって現状と問題点とを正確に把握するために、詳細な全学アンケート調査を実施いたしました。各関連部局ならびにTA諸氏のご協力に深く感謝申し上げます。現在、教育・情報室ならびに学生部におきまして調査結果を分析しております。この分析をふまえ、いずれTA制度の運用について改善すべき点をお示ししたいと考えております。

研究推進室

生物分子工学研究所(BERI)の移管並びに本学と大阪バイオサイエンス研究所(OBI)との連携協定締結

吹田市古江台の生物分子工学研究所(BERI)が、本学に寄附され、バイオ関連多目的研究施設として、学内のバイオ関連の大型研究プロジェクト並びに産学官研究プロジェクトの実施の場として活用することとなりました。さらに、隣接の大阪バイオサイエンス研究所(OBI)との間において、それぞれの独自の研究活動を基礎に連携協力を促進する目的で連携協定を締結するべく準備中です。

共同研究講座制度の導入による関連講座の設置

本年4月に制定された共同研究講座制度に基づき、3つの共同研究講座が教育・研究評議会で承認され、設置することが決まりました。3つの講座はいずれも工学研究科に設置され、出資企業はそれぞれ株式会社小松製作所、新日鐵化学株式会社、ダイキン工業株式会社です。

㈱小松製作所とは、「大阪大学コマツ講座(建機等イノベーション講座)」を設置し、期間は3年間で研究費は、1年間当たり5000万円で、環境負荷を大幅低減した製品などエコ産業モデルの創出を目指します。新日鐵化学㈱とは「新日鐵化学・マイクロ波化学共同研究講座」を設置し、期間は3年間で同3千数百万円で、マイクロ波を用いて速度、収率、選択性の優れた化学反応の実用化を目指します。ダイキン工業㈱とは「大阪大学ダイキン(フッ素化学)共同研究講座」を設置し、期間は2年間で同3000万円で、有機フッ素化合物を用いる物質創成技術やフッ素化合物製造のプロセス、触媒開発に取組みます。共同研究講座は民間から資金提供を受けて学内に設ける共同研究に専念する制度で、出資企業からの人材受け入れも積極的に行い、研究成果の向上につなげていくものです。

科学技術振興調整費等の採択状況

科学技術振興調整費

総合科学技術会議のイニシアティブの下、我が国の科学技術政策上の重要な課題を解決するために用いられるトップダウン型の競争的資金であり、本年度は以下の課題が研究代表機関、参画機関として採択されました。

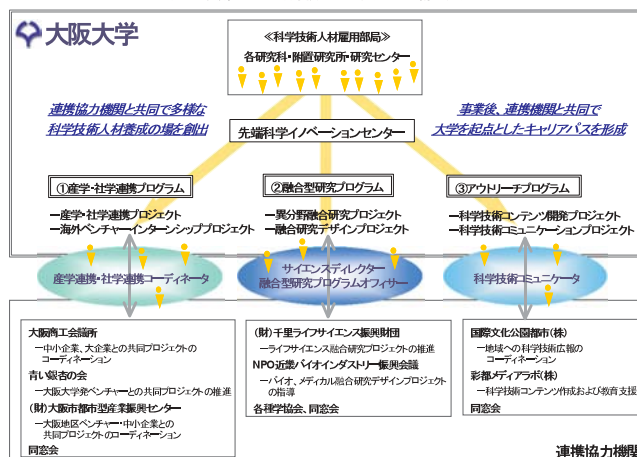
	プログラム名	提案課題
1	科学技術連携施策群の効果的・効率的な推進	「BSL-4施設を必要とする新興感染症対策」 「生体内分子を可視化するナノセンサ分子開発」
2	重要課題解決型研究等の推進	「新映像技術ダイブイントゥザムービーの研究」 「統合医療の科学的評価法開発と臨床指針作成」
3	若手研究者の自立的研究環境整備促進	「グローバル若手研究者フロンティア研究拠点」
4	先端融合領域イノベーション創出拠点の形成	「生体ゆらぎに学ぶ知的人工物と情報システム」
5	アジア科学技術協力の戦略的推進	「東南アジア物造り産業バイオ研究拠点」

科学技術関係人材のキャリアパス多様化促進事業

本事業は、ポストドクター等の若手研究者のキャリア選択に対する組織的な支援をする事業として文部科学省から公募があり、採択されました。

プロジェクト活用型科学技術キャリア創生モデル事業

連携機関と協力し、ポストドクター等が主体的に実践するプロジェクトを通して社会的要請に応えた科学技術人材キャリアを創生する



ワーキンググループによるプロジェクトの推進

昨年度、研究推進室に生命科学・生命工学分野、ナノサイエンス・ナノテクノロジー分野、理工学分野、文系分野、文理融合分野の5つのワーキンググループを設置し、本学の中長期的研究戦略として、1) 部局横断型研究の推進、2) 第三期科学技術基本計画への対応、3) 文部科学省、JST等を始めとする各種プロジェクト公募への対応等を視野に入れ、「研究戦略ワーキング報告書」をまとめました。

また、部局横断型の研究プロジェクト支援経費により10件のシンポジウムを開催しましたが、本年度においても同様の支援を行うこととしています。

評価・広報室

17年度業務実績報告書の作成と提出

教育、研究、社会貢献、業務運営の4つの項目について、評価・広報室を中心に現在、17年度業務実績報告書の作成作業を進めています。各部局と各室・本部から提出された実績をもとにとりまとめ、6月末に文部科学省に提出します。

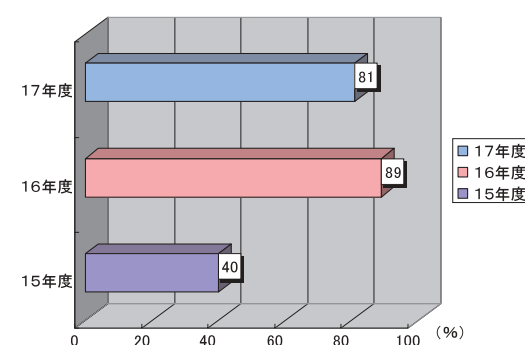
本報告書の取りまとめに際しては、各部局、本部の各室、部・課などの多大のご協力をいただきましたことを、ここにお礼申し上げます。

教員基礎データの更新

データ管理分析室では、教員基礎データの更新状況を調査し、6月の部局長会議で説明しました。

とくに研究論文については、研究業績の主要データの一つとなりますので、最新の情報を入力いただきますよう、ご協力をお願いします。

教員基礎データ更新率



Webページコンテンツの更新



評価・広報室広報ワーキングでは、Webページの充実のための検討を昨年来進めています。

各室・本部、各部局が掲載されるコンテンツ、ニュースについては、最新の情報が提供できるようご協力をお願いします。

阪大ニューズレターNo.32の発行

阪大ニューズレター No.32 を発行しました。

No.32では、「大学の国際化」をテーマに取り上げ、海外拠点やタイの感染症共同研究センターを紹介しています。



財務・会計室

平成17年度重点経費、間接経費執行計画の策定

平成18年度の「重点経費」及び「間接経費」については、より効果的、効率的な執行計画とするため、財務・会計室で書類審査並びにヒアリング審査に基づく執行計画案を策定し、4月18日の役員会で審議・了承されました。

採択事業の詳細は以下のとおりです。

重点経費：10事業

(単位:千円)

部 局 名 等	事 項 名	金 額
事務局(学生部)	学務情報システムの整備・拡充	102,200
附属図書館	学生用図書の体系的・継続的な整備経費	15,000
吹田地区共通／工学研究科、教育・情報室学生生活委員会	吹田地区福利厚生施設の補修ならびに充実	13,000
歯学部附属病院	看護体制並びに教育支援体制の充実に係る経費	2,863
大学教育実践センター	TOEFL-ITPによる共通教育英語習熟度別クラス編成、英語科目成績の標準化及びデータ収集	9,380
留学生センター／学生交流推進課	Webによる日本語プレースメントテストおよび科目登録システムの整備	1,500
保健センター	医用画像検診システム	27,000
大学教育実践センター	新型授業開発プロジェクト	6,400
医学部附属病院	医学部附属病院の教育機関としての体制整備に係る経費	30,000
総合計画室	キャンパス・イノベーションセンター(大阪地区)入居に係る使用料等	2,300
計		209,643

間接経費：27事業

(単位:千円)

部 局 名 等	事 項 名	金 額
附属図書館	電子ジャーナル経費	35,000
事務局(財務情報推進課)	事務情報システム整備、科学研究費補助金経理事務システムの更新(2-1)	16,000
サイバーメディアセンター	全学IT認証基盤整備(第2期、3期整備)	90,000
安全衛生管理部	AED(自動対外式除細動器)の整備	7,800
総合学術博物館	待兼山修学館の博物館展示のための説明・警備要員の配置(教育・研究・社会貢献機能の向上)	3,600
事務局(施設部)	施設情報管理システムの保守及びデータベース構築	3,900
知的財産本部	機関帰属知的財産の出願等経費	11,000
国際交流推進本部	海外拠点(サンフランシスコセンター)運営経費	29,000
国際交流推進本部	海外拠点(タイ・バンコクセンター)運営経費	20,000
原子力研究・安全委員会(研究推進・国際部)	核燃料物質全学管理ネットワーク(仮称)発足に伴う保管・廃棄設備の整備	56,000
事務局(研究推進・国際部)	大阪大学ホームページ「研究協力情報」サーバ機器更新経費	1,500
国際交流推進本部	海外拠点(グローニンゲンセンター)運営経費	11,000
環境安全研究管理センター	大阪大学薬品管理支援システム(OCCS)に係る運営、管理経費	8,200
医学系研究科	動物実験施設空調設備各室制御系等整備	32,000
安全衛生管理部	緊急用電話回線増設	173
事務局(研究推進・国際部)	大阪大学ホームページ「研究協力情報」に係る経費	2,700
事務局(総務部)	キャンパスマップの作成	800
事務局(総務部)	コンベンション・センターの映像及び音響機器の更新	35,000
安全衛生管理部	衛生管理者免許取得支援	780
歯学部附属病院	病院情報管理システム用機器の充実	32,000
事務局(研究推進・国際部)	国際交流会館(豊中)の電気冷蔵庫の更新	7,700
蛋白質研究所	本館エレベーター改修工事	10,000
医学部附属病院	患者環境改善設備	100,000
事務局(施設部)	環境報告書の作成業務委託	6,000
事務局(総務部)	大阪大学プロフィールのデザイン更新・作成	833
研究推進室	部局横断型の研究プロジェクト等支援経費	4,800
歯学研究科	クリーンエリア滅菌システム	13,000
計		538,786

人事労務室

非常勤職員の夏季休暇の本格的な実施

本学では、非常勤職員に夏季休暇を付与することについて、付与した場合の問題点などの実情等を把握するため、法人化の平成16年度から2年間、試行的に実施いたしました。

この試行の状況を踏まえ、非常勤職員に一定の条件で夏季休暇を付与することについて、平成18年度から正式に導入すべく検討しています。
(平成18年7月実施する方向で検討中)

国際交流推進本部

大阪大学独自の助成金(奨学金)制度を整備

在学中に海外の大学に留学する、あるいは海外でインターンシップを経験することは、異文化を理解し国際性を高めるものとして、いま世界の大学が競って推進しています。「国際交流推進本部」でも、「阪大生の海外留学推進」をトップ・アジェンダとして、さまざまな企画を実施してきました。その一つに、毎年6月に行われる「阪大生のための海外留学オリエンテーション」があります。ここでは、留学経験のある先輩から話を聞くという企画もあります。

こうした活動に加え、この度、経済的側面から海外留学を支援すべく、本学独自の助成金(奨学金)制度を創設しました。概要は以下に示す通りです。これらの制度を大いに活用して、より多くの阪大生が海外留学することを期待しています。なお、これらの募集については既に開始していますので、詳細については、研究推進・国際部学生交流推進課にお問い合わせ下さい。

(1) 学生海外短期研究留学助成

概ね2 - 10ヶ月間の研究留学をする大学院博士後期課程(医・歯にあっては博士課程)の学生を対象として、1人当たり100万円を限度として、年間20名程度に支給します。平成18年9月までに留学を開始する第1回については、既に10名への支給を決定しています。

(2) 学生交流助成(派遣)

本学と大学間または部局間学生交流協定に基づいて行う、3ヶ月 - 1年の交換留学をする学部生及び大学院博士前期課程の学生を対象として、1人当たり120万円を限度として年間3名に支給のほかに、大学が認めた派遣期間について1人当たり月額5万円を年間20名程度に支給します。

(3) 学生海外研修プログラム等助成

全学もしくは部局が行う海外研修プログラムに参加する学部生及び大学院生を対象として、1人当たり10万円を限度として、年間70名程度に支給します。

(4) 学生海外研修助成

自らの企画により、明確な目的のもとに海外の大学間協定大学等へ出かけて交流する計画をもつ本学学生グループを対象として、1グループ当たり100万円を上限として、年間2グループに支給します。

これに加えて、交換留学生として受け入れる海外からの留学生に対して、1人当たり月額8万円を年間15名程度に支給する制度も開始しています。



■ 待兼山 5 号墳の発見

さる3月に装いを一新した豊中キャンパスの通称「阪大坂」。淡い色の舗石が「うろこ張り」に施され、ずいぶん明るくなった感じがします。その坂下付近の一角に色の違う石がサークル状に敷かれている部分があるのに気づかれましたか。この石の範囲は、地表下1.5mの位置に地下保存されている待兼山5号墳の周濠の位置を正確に示したものです。

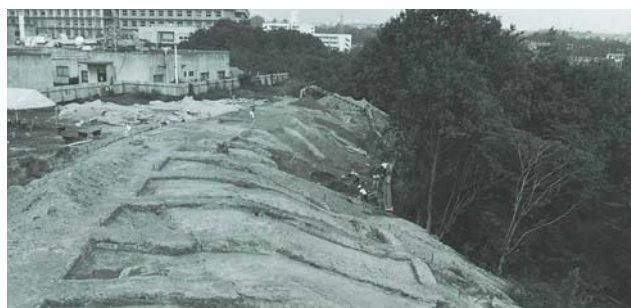
待兼山5号墳は、「待兼山周辺修景整備工事」にともなって2005年7月～11月にかけて行われた発掘調査で全容が明らかになった古墳です。直径15mの円墳で、残念ながら埋葬部分は後世の削平で失われていましたが、古墳をとりまく濠がよく残っており、濠の中からは多くの円筒埴輪のほかに、馬形、家形、蓋形などの珍しい形象埴輪が出土しました。形や作り方の特徴から見て、5世紀後半の築造と考えられます。

とくに重要なのが馬形埴輪です。全体の復元作業はこれからですが、頭にかけた面繫と呼ばれる革ひもの表現も立体感に富んでいて、馬形埴輪が出現して間もない初期の特徴をよく示しています。5世紀にさかのぼる馬形埴輪のうち、頭部がこれだけよく残っているものは大阪府下でもまだ10例ほどしかなく、貴重な資料となりました。

また、今回の発掘調査では、古墳のほかに鎌倉～室町時代の火葬墓群、江戸時代の土葬墓なども見つかり、文献史料にない「地域の歴史」を語る文化財として注目されています。



5号墳の埴輪検出作業



ラジオアイソトープ総合センター用地の発掘調査（1983年）



待兼山5号墳全景



出土した馬形埴輪

■ 待兼山丘陵の埋蔵文化財

「津の国の待兼山のよぶこ鳥なけど今来といふ人もなし」

平安時代の私撰集『古今和歌六帖』には摂津待兼山を詠みこんだせつない古歌が見られます。清少納言が『枕草子』の「山は」の段に「山はをぐら山、かせ山・・・まちかね山・・・」と記したことも知られています。待兼山は「待ちかねる」に通じる響きの妙から多くの歌人たちに愛され、秀歌を生んだ歌枕の地として歴史に名を残してきました。

その待兼山がさらに古い時代から人々の活動の場であったことがわかったのは、比較的最近のことです。1983年にキャンパス南東部でラジオアイソトープ総合センター新営工事が行われた際に、まったく知られていなかった弥生時代の集落跡が見つかり、豊中キャンパスを含む丘陵一帯が埋蔵文化財包蔵地（待兼山遺跡）として、国の文化財台帳に登録されました。以後、キャンパス内は文化財保護法の適用を受けることになり、建設工事などの際に文化財の調査が必要となったのです。

本学では、1985年に文化財の保護・調査とキャンパス整備の円滑な調整をはかるために埋蔵文化財調査委員会が設置され、そのもとで埋蔵文化財調査室が現場業務を担うようになって今日に至っています。この間にキャンパス内各所で行われた発掘調査や工事立ち会い調査などによって、待兼山丘陵では弥生時代中期（前1世紀）から江戸時代までほぼとぎれなく人々の営みが続いていることが明らかになりました。

■ 待兼山古墳群と西摂の古墳時代史

キャンパス内では、この20年間の調査で古墳が3基見つかっています。いずれも5世紀中頃から後半のもので、さらに、グラウンド北西の斜面にかつて存在していた待兼山古墳(4世紀後半の前方後円墳と推定、1910年頃に削平消滅)、正門脇の「大高の森」に埋没している石塚古墳(5世紀前半?)などを加えて考えると、丘陵上には4世紀後半から5世紀にかけて古墳が連綿と築かれていたことが確実になりました。従来、西摂地域の古墳時代史では空白となっていた箕面川流域の豪族の系譜が明らかになったわけです。

箕面川流域の豪族層は、4世紀後半の待兼山古墳で最も格式の高い前方後円墳を築いた後は、5世紀になると待兼山5号墳のような小規模な古墳づくりに終始するようになり、西摂地域内でのその政治的地位が低下していったようです。ところが、6世紀を迎えると待兼山5号墳から北西800mの箕面川西岸に有力な前方後円墳である池田市二子塚古墳がとつぜん現れ、ふたたび勢いを盛り返したことがわかります。

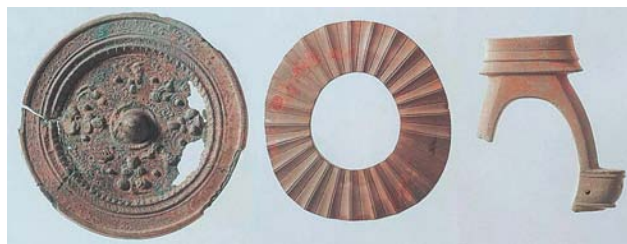
重要なことは、このような箕面川流域集団の政治的な浮沈がたんなる地域内の小競り合いの結果ではなく、ヤマト政権中枢での有力豪族の権力争いと深く結びついたものであると推定される点です。こうなると待兼山古墳群の持つ意味は日本古代史全体の問題にもつながってくるわけです、このあたりのことは、今年度に予定している待兼山5号墳出土品の整理分析作業の中でしっかり検討していきたいと思っています。



調査現場の仮設掲示板(地元の方も多数見学にいられました)



リニューアルされた現在の阪大坂の様子(5号墳周濠の地表示)



待兼山古墳出土の銅鏡と腕飾り(『新修豊中市史』より)



待兼山3号墳の家形埴輪(1987年出土)

■ 地域の歴史遺産として

4ヵ月に及んだ発掘調査の期間中には、教職員、学生のみならず、多くの地元の方々も調査の様子を見にられました。新聞に報道されて以降はその数も増え、現場のフェンスの外に用意したパンフレットは最終的に1000部をこえました。埋蔵文化財調査室では調査成果のエッセンスを毎日ホームページで発信するという取り組みを行っていましたが、「インターネットで見て」と言われてうれしかったこともあり、

そうした方々の声に接してあらためて感じたのは、大阪大学が地域の豊かな歴史環境や自然環境の中に共存しているということ、そしてそれは、文化や科学技術を創生していく役割を担う本学にとってかけがえのない財産でもあるということでした。

はじめにも記したように、待兼山5号墳は地中に保存され、現地では地表示と説明版を用いた遺跡修景が行われました。発掘調査の状況を勘案しながら臨機応変に施工対応された本学施設部の尽力からは、地域にとっても魅力あるキャンパスをつくらうという熱意を私は感じ取りました。

はやくに市街化が進んだ豊中市域にあって、待兼山は「市民が選ぶ豊中百景」にも選定されているように地域にとって貴重な癒しの空間です。さらに坂を登ればわが大阪大学。歴史、自然、学術への門戸としてさまざまな人々が行き交う新しい「阪大坂」で、「地域に生き世界に伸びる」大学の過去と未来をしばし思い描いてみてはいかがでしょうか。

埋蔵文化財調査室ホームページ

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/maibun/index-maibun.htm>

「国際平和協力セミナー～平和の定着における様々な支援主体の役割、日本型支援の将来像～」開催

2月16日(木)と17日(金)に、外務省と大阪大学大学院国際公共政策研究科の共催で「国際平和協力セミナー～平和の定着における様々な支援主体の役割、日本型支援の将来像～」が開催されました。初日は、実務者・専門家による非公開の集中討論が大阪大学中之島センターで行われ、その成果をもとに2日目には大阪国際会議場での公開シンポジウムが開かれました。会場を埋めた約140人の聴衆は、「開発・人道支援や平和構築への文民による貢献とはいかなるものか」をテーマとする元国連事務総長特別顧問のラクダール・ブラヒミ氏による基調講演や、ジョゼフ・キャメロン駐日カナダ大使、国連世界食糧計画日本事務所代表の玉村美保子氏、当研究科の星野俊也教授ら内外の有識者・実務家によるパネルディスカッションに熱心に聞き入りました。パネリストの国連関係者たちからは、国際貢献を目指す学生たちに向けて国際機関に就職するための多くの助言が出されました。

(大学院国際公共政策研究科)



大阪国際会議場でのパネルディスカッション

総合学術博物館「小学校連携科学体験教室」と「大学Jr.サイエンス・スクール」実施

総合学術博物館では3月1日(水)から3日(金)と7日(火)、9日(木)、10日(金)の6日間にわたり、豊中市内の6つの小学校から生徒を招き、豊中キャンパスで現役阪大教員が理科の授業を行う「小学校連携科学体験教室」を開催しました。また3月8日(水)には大学等地域開放特別事業「大

学Jr.サイエンス・スクール」として、豊中市立桜井谷小学校6年生を対象に理科授業を行いました。いずれも、小学生の科学教育を推進し地域社会との積極的な交流を目指すプロジェクトとして期待されています。

(総合学術博物館)



授業風景



博物館見学

人間科学研究科「魅力ある大学院教育」イニシアティブ第1回国際セミナー開催

人間科学研究科では、魅力ある大学院教育イニシアティブプログラムの一環として、スタンフォード大学大学院より Fetterman 教授をお迎えして、「Empowerment Evaluation : Building a Learning Organization エンパワメント評価～学びながら発展する組織作りのために～」と題したセミナーを3月3日(金)中之島センターにて開催しました。セミナーは、午前の一般講演会と、Fetterman 教授を囲んでの昼食交流会、午後の大学院生対象のワークショップから構成されました。それぞれ、講演会 72 人、院生対象のワークショップでは 33 人の参加があり、ともに活発な意見交換が行われる、活気ある参加型のセッションとなりました。本講演会は、「実践的研究者 (practical researcher)」の育成を目指す「人間科学教育」を標榜して行われ、理論的研究とフィールド実践との連動、理系分野と文系分野の学際的連携、大学と社会、地域との連携等について、実感を伴って考える機会となりました。

参加者は、講演会を通して「Empowerment Evaluation」の理論と方法を学ぶと同時に、ワークショップを通して、実際に (1) Mission (2) Taking Stock (3) Planning for



the future の 3 段階のステップを体験し、その中で自分自身のエンパワメントと、組織全体のエンパワメントと前進を考え、自己決定に基づき目的を達成する力と、他者と共に目標達成に向かう方法とプロセスの重要性とを学ぶ時間を持ちました。

(大学院人間科学研究科・人間科学部)

工学研究科と台湾国立成功大学工学院が学術交流協定及び学生交流の覚書に調印

3月17日(金)、大学院工学研究科と台湾国立成功大学工学院との間で学術交流協定及び学生交流の覚書の調印式が、台湾・台南市にある国立成功大学において行われました。

17 世紀台湾の英雄・鄭成功にその名を由来する成功大学は、台湾の西南にある台南市の中心部に位置し、全 8 学部、学生総数約 2 万人に及ぶ総合大学です。

調印式には本学から豊田政男工学研究科長、馬場章夫評議員及び宮田幹二教授が、国立成功大学から呉文騰工学院院长らが出席して行われ、調印後、両大学の研究科長、院長から挨拶が述べられ、出席者全員で記念撮影を行って終了しました。

調印式に引き続き、豊田研究科長による英語での講演「New Phase of Research Strategy in Japan and Research Activity of Graduate School of Engineering, Osaka University」が行われ、同研究院の教員・大学院生等が多数聴講しました。

その後、成功大学の高強学長とも懇談し、両大学の交流について意見交換を行いました。

今回の協定締結により両大学の学生交流が今後ますます活発化することが期待されます。

(大学院工学研究科・工学部)



協定書を取り交わす豊田研究科長(左)と呉文騰工学院院长



調印式終了後の全員による記念撮影

平成17年度(第26回)基礎工学部シグマ講演会開催

平成17年度(第26回)基礎工学部シグマ講演会が3月22日(水)15時から、九州大学大学院医学研究院・九州大学デジタルメディシンイニシアティブ代表の砂川賢二教授を講師にお招きして、「魅力ある大学院教育」イニシアティブプログラムならびに臨床医工学融合研究教育センターとの共催により、基礎工学部国際棟(シグマホール)において開催されました。

講演会は、宮崎文夫大学院基礎工学研究科副研究科長、倉智嘉久臨床医工学融合教育センター長の挨拶に続いて、砂川教授が「バイオニック医学による循環器疾患の新たな治療戦略の開発」の演題で講演されました。生命科学与先端工学の進歩に支えられた臨床医学の著しい発展がバイオニック医学を可能にしています。本講演では、バイオニック医学による、自律神経に電子的に介入する循環器疾患治療戦略や、循環器疾患の自動治療システムの最先端を例に、将来への展望を含めて、具体的かつ丁寧にお話しいただきました。この講演会を基礎工学内外の教職員、学生



講演する砂川教授

など約100名が聴講しましたが、砂川教授の分かりやすかつ熱意にあふれた講演は聴衆にとって示唆に富むものであり、大変有意義なものでありました。

(大学院基礎工学研究科・基礎工学部)

平成17年度退職時永年勤続者表彰式挙行

平成17年度退職時永年勤続者表彰式が、3月29日(水)午前11時30分からコンベンションセンター会議室1において、被表彰者53名のうち44名の出席のもとに挙行されました。

式は、宮原秀夫総長から被表彰者一人ひとりに表彰状と記念品が授与された後、お祝いの言葉が述べられ、続いて、被表彰者を代表して言語文化研究科の鳥家大永事務長が謝辞を述べ閉式しました。

引き続き事務局玄関ホールで記念撮影を行った後、銀杏会館に会場を移し、宮原総長、北見耕一理事・事務局長等を囲んで午餐会が開かれ、思い出話の披露が行われるなど永年の勤続を顧みて懇談がはずみ、和やかなうちに散会しました。

今年度表彰された方は、次のとおりです。

中島 聖勝(事)	白田美保子(医病)	西嶋 厚子(医病)	阪田 洋子(歯)	西田 静子(基)
坂根貴美子(事)	水谷 綾子(医病)	木元 治幸(医病)	宇都宮庄蔵(薬)	新田由貴子(基)
泉 文雄(図)	伊藤 憲子(医病)	石井 和子(医病)	宮本 博光(工)	鳥家 大永(言)
鷲野 圭子(図)	吉岡キヨ子(医病)	松宮 勝(医病)	山庄司由子(工)	明石 敏幸(微)
嶋田 元嗣(文総)	古谷 和子(医病)	港 禮治郎(医病)	岩本 紀子(工)	足立 敏之(産)
村尾 泰雄(文総)	加好 文子(医病)	山内 正美(医病)	木下 和子(工)	吉村 由美(蛋)
大橋 哲郎(総博)	前川きみ子(医病)	小林 康祐(医病)	矢吹 三恵(工)	和田美佐男(社)
松岡 健次(理)	山中登喜子(医病)	大畑 良秋(医病)	井上 正次(基)	岡安 格雄(核物)
梶 敏子(医)	赤羽 茂子(医病)	芦田 千秋(医病)	大和 卓司(基)	片山 昌造(工作)
佐々木和子(医)	寛 美智恵(医病)	加藤 弘(医病)	田中 邦夫(基)	
藤岡千鶴子(医)	山崎 展子(医病)	粕谷 幸宏(歯)	田村 純子(基)	(総務部人事課)

大阪大学情報基盤デザイン機構・事務局情報推進部設置

大阪大学の情報基盤の整備充実、先端的情報環境の構築による教育研究活動の支援を図ることを目的として、「大阪大学情報基盤デザイン機構」を去る2月1日に設置し、機構長には鷲田清一理事・副学長（教育・情報担当）が就任しました。

また、本機構を支える事務部門として、「財務部情報推進課」、「学生部学務課学務企画室」及び「サイバーメディアセンター事務局」を統合再編し、事務局に情報推進部を4月1日に設置しました。

去る4月10日（月）、サイバーメディアセンター玄関において、本機構の看板上掲が行われました。

（情報推進部情報企画課）



写真右から、金水 敏情報基盤委員会委員長、鷲田機構長、下條真司サイバーメディアセンター長、木下伸二情報推進部長

「ナノ高度学際教育研究訓練プログラム」社会人再教育プログラムの平成17年度第2期生修了認定証授与式、および平成18年度第3期生開講式ならびに特別講義、懇談会開催

ナノサイエンス・ナノテクノロジー研究推進機構は、標記の修了認定証授与式、開講式並びに特別講義を、147名（遠隔教室にて40名を含む）の出席のもと、4月7日（金）に本学中之島センターにおいて開催しました。

本プログラムは、科学技術振興調整費新興分野人材養成プロジェクトとして、平成16年度より5年間の予定で実施中の、実社会で活躍中の研究者・技術者を対象とした5コースからなる研究科横断型の高度再教育プログラム（1年間）です。また、サテライト教室は近畿、関東から東北地区にも拡大し、多くの企業のご協力を得ております。

修了証書授与式（2期生73名）では、馬越佑吉（理事・副学長）機構長より、修了認定証および大阪大学エクステンション修了証書が授与され、開講式（3期生121名）では、



馬越機構長の開会の挨拶、赤井久純再教育プログラム主任（理学研究科教授）の履修指導がありました。また特別講義「1分子ナノバイオサイエンス」（生命機能研究科 柳田敏雄教授）では、受講生が質問を交えて熱心に聞き入っていました。引き続いての懇談会には、107名が参加し、受講生、大学関係者相互の親交を深める絶好の機会となりました。

今年度の大学院生向けのプログラムもスタートし、外部講師によるキャリアアップ講義シリーズ開講や社会人再教育講義への聴講許可などが加わり、両プログラムの相互乗り入れによって内容の一層の充実が図られています。

（研究推進・国際部研究推進課）

平成18年度大学院工学研究科博士課程入学式挙行

平成18年度大学院工学研究科博士前期課程・後期課程入学式が、4月10日(月)午前10時30分から、本学コンベンションセンター MO ホールにおいて挙行されました。

当日はあいにくの雨天にもかかわらず、大学院工学研究科新生の博士前期課程791名、博士後期課程140名中、約500名に及ぶ新入生並びにご父兄が出席し、会場は超満員となりました。

式は、豊田政男研究科長、谷口研二教育研究評議員を始め、4名の副研究科長、10名の各専攻長の列席のもと、掛下知行教務委員長(副研究科長)の司会により進められ、

列席者の紹介、豊田研究科長の式辞の後、入学生を代表して博士後期課程応用化学専攻 田村はるかさんが宣誓を行いました。

続いて来賓として列席いただいた白川 功名誉教授(元工学研究科長、現兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科長)による「モノづくりと産学連携の変遷」と題した入学記念講演が行われ、閉式となりました。

(大学院工学研究科・工学部)



入学生代表 田村はるかさんによる宣誓



豊田研究科長による式辞

AED取り扱い講習会の実施

安全衛生管理部と保健センターでは、4月11日(火)14時からコンベンションセンター MO ホールにおいて、また、4月12日(水)13時から附属図書館6階ホールにおいて、AED 取り扱い講習会を実施しました。

この講習会は、心室細動(致死的不整脈)という心臓の病気で突然倒れてしまった人に電気ショックを与え心臓を正常な状態に戻すための救命装置である AED(自動体外式除細動器)の取り扱い方法を理解してもらうために実施したものです。

講習会には、両日あわせて約350人の参加があり、講師の保健センター・高島成二助手と日本光電関西株式会社の担当者から、救急救命の概要及び AED の取り扱い方法について説明がありました。

(安全衛生管理部、保健センター)



高島助手による説明

大学院工学研究科と美作市が連携協力に関する基本協定を締結

大学院工学研究科と岡山県美作市は、21世紀に求められる豊かで持続可能な生活圏を構築しようとする社会的取り組みを推進することを目的として、連携協力に関する基本協定を締結しました。



調印後、握手する豊田研究科長（右）と宮本市長（左）

4月14日（金）に大学院工学研究科で行われた調印式には、大学院工学研究科側から豊田政男大学院工学研究科長、谷口研二教育研究評議員、本協定の窓口となった小林昭雄教授及び盛岡 通教授が、また、美作市側から宮本俊朗市長、坂元英太郎助役が出席し、協定書を取り交わしました。

なお、この協定は、「エコ産業技術の開発と循環型社会の技術・制度デザイン」をスローガンにサステナビリティ・サイエンスを創成し、持続可能な産業・社会の形成に貢献することを目的として設置された全学組織「大阪大学サステナビリティ・サイエンス研究機構」（機構長：豊田工学研究科長）が実施する事業の一環として締結され、自治体の持つ貴重な資源と大学が有する人的資源を機能的に活用し、21世紀に真に求められるウェルネスサイエンスの発展に向けて連携協力するものです。

（大学院工学研究科・工学部）

第6回阪大フロンティア・シンポジウムを開催

平成18年度に設置された大阪大学大学院工学研究科附属フロンティア研究センターでは、4月17日（月）に、大阪大学医学部銀杏会館において、科学技術振興調整費戦略的研究拠点育成プログラム「大阪大学フロンティア研究拠点構想」として活動した5年間の成果を総括するため、「第6回フロンティア・シンポジウム」を開催しました。

シンポジウムでは、豊島久真男「フロンティア研究拠点構想」評価委員長による挨拶とともに、豊田政男大学院工学研究科長、池田雅夫大学院工学研究科附属フロンティア研究センター長、馬越佑吉理事・副学長、及び下村和生文

部科学省科学技術・学術政策局次長による講演が行われ、参加者は熱心に耳を傾けていました。

また、シンポジウム終了後、工学研究科の活動に賛同いただいた篤志家からの寄附により建設された「フロンティア研究棟1号館（井内記念館）」の竣工記念式典及び竣工記念祝賀会が開催され、宮原秀夫総長による挨拶、下村次長による祝辞や、寄附者への感謝状の贈呈、関係者による懇談などが行われ、フロンティア研究棟1号館の竣工を盛大に祝賀しました。

（大学院工学研究科・工学部）



フロンティア研究棟1号館竣工記念式典で挨拶する宮原総長



フロンティア研究棟1号館竣工記念式典で祝辞を述べる下村次長

平成18年度大阪大学初任者研修実施

今年度最初の研修である平成18年度初任者研修が4月17日(月)から21日(金)までの5日間にわたり行われました。

前半は大阪大学コンベンションセンターで講義を主体に行い、後半の19日(水)午後からは会場を国立曽爾青少年自然の家に移し、2泊3日の合宿により演習を中心として行われました。

この研修は、昨年5月1日以降採用された事務系、図書系及び技術系職員63名(本学48名、大阪教育大学8名、和歌山大学2名、和歌山工業高等専門学校3名、国立曽爾青少年自然の家2名)を対象に「職員としての自覚と意識の確立を図り、初任職員として必要な基礎的知識・技能を身につけ、職場への適応力を養う。」ことを目的として実施されたものです。

今回は㈱マネジメントサービスセンターのシニアコンサルタントである新妻律子さんを研修講師に迎え、初任者として必要な心構えや知識について講義・演習を担当していただきました。演習においてはグループ討議を主体とした「コミュニケーションゲーム」「事例研究」を通じて活発な意見交換が行われ、全員意欲的に様々な課題に取り組むと

ともに、本学セクシュアル・ハラスメント専門相談員の周藤由美子さんが講師となった「セクシュアル・ハラスメント」に

についても熱心な演習が行われました。

課外活動の「ウォークラリー」では、9つの班に分かれ、コマ図(ポイント地点の略図)を基に曽爾高原お亀池コースを散策しました。途中、道に迷う班もありましたが、曽爾高原一帯の景色は大変素晴らしく、各班各々のペースで春のそよ風を感じながら散策を楽しみました。その後の野外炊飯では慣れない手つきで薪を割るなど、戸惑いながらも自然の中で食べる夕食に舌鼓を打っていました。こうしたプログラムを通じてお互いに親睦を深め合うなど有意義な時間を共有し、5日間の研修を無事修了しました。

(総務部人事課)



馬越佑吉理事・副学長 サイエンス・カフェに出演

4月22日(土)に大阪市天王寺区の應徳院でサイエンス・カフェが行われ、馬越佑吉理事・副学長(日本学術会議会員)が話題提供者として「宇宙航空材料から骨疾患診断・治療へ—自由な発想と役に立つ研究」という題で出演しました。

サイエンス・カフェは、1990年代後半にイギリスで始まった科学者と一般市民の対話の試みで、近年、世界各国で開催されています。講師が聴衆に向かって科学技術を解説するだけの講演会とは異なり、科学技術の専門家が自らの専門分野について話題提供をし、比較的少人数の一般市民と双方向に議論しあう点に特色があります。日本学術会議は、科学技術の専門家の社会的責任として「アウトリーチ活動」重視し、積極的に支援し始めており、その活動の一つとして科学技術週間(4月17日から23日)に、日本学術会議会員の出演を条件に全国21カ所でサイエンス・カフェが開催されることになりました。



日本ではサイエンス・カフェは喫茶店などで開催されることが多いのですが、今回は地域の社会的活動の場を永らく提供してきた、應徳院

という寺院で開催しました。主催はNPO法人サイエンス・コミュニケーションと日本学術会議、科学技術振興機構で、大阪大学からはコミュニケーションデザイン・センターが協力しました。

この寺院で開

催しました。主催はNPO法人サイエンス・コミュニケーションと日本学術会議、科学技術振興機構で、大阪大学からはコミュニケーションデザイン・センターが協力しました。当日の参加者は、高校生から社会人まで40人を超え、馬越副学長の専門である材料工学が関わる多様な世界に関心をひきつけられたようでした。自由な問題意識や高度な専門的知識を踏まえた研究の楽しさ、面白さと、その成果の社会への還元結びつきが具体的に説明され、参加者には科学研究の持つ魅力が十分伝わったようでした。実際、馬越副学長の説明の途中にも随時手が挙がり、大変活発な質疑が行われました。

今後、科学技術研究に携わる専門家は社会的責任として、社会とのコミュニケーションを行うことが求められていきます。その意味で、大阪大学でもサイエンス・カフェへの取り組みが始まったことの意義は大きいと思われます。

(コミュニケーションデザイン・センター)



2006 APRU/AEARUリサーチシンポジウム開催 環太平洋地域の地震災害 - 地球的観測と環境負荷低減 -

大阪大学とカリフォルニア大学バークリー校共催によるリサーチシンポジウムが、4月21日(金)及び22日(土)に亘りサンフランシスコにおいて開催されました。このシンポジウムは、アジア太平洋地域の有力大学が加盟する大学連合であるAPRU(環太平洋大学協議会)及びAEARU(東アジア研究型大学協会)のプログラムの一環として開催されたもので、AGENDA21(地球環境に関する国連決議)に明記されているように地球規模での緊急の課題である地震や自然災害に係る最新の観測技術、危機管理、ライフライン確保及び災害の低減等に関する研究成果発表をもとに、地球規模での監視体制や環境負荷の低減方策に英知を出し合い、加盟大学間の学際的な共同研究を促進し、学術的な協力を深め、もって国家レベルでの環太平洋地域の防災に貢献することを目的としています。

宮原秀夫大阪大学総長の開会挨拶を皮切りに、Edward EPSTEIN UCバークリー国際地域研究学部副学部長及びAPUR事務局長であるLawrence LOHシンガポール国立大学副学長のスピーチで始まったシンポジウムでは、環太平洋地域の各大学から参加した26名の講演者による発表が行われました。

また、全6セッションのうち1セッションは、公開講座として広く一般の方々にも開放され、京都大学防災研究所の林春男教授からは、阪神大震災やスマトラ沖大地震による津波被害、ハリケーンカトリーナ等の災害からの復興プロセスに関する講演、Charles JAMES UCバークリー地震工学研究センター図書室長からは、古来から地震に関して人類が畏怖した数々のイメージが示されました。併せて、講演される予定のところ、去る3月に急逝された池谷元同大阪大学名誉教授がライフワークとされた、民話や伝承に残る動物の特異行動と地震との相関関係に関する講義もビ



デオ映像により行われました。

最後のセッションでは、各講演を踏まえた総括と今後の地球的規模での地震監視体制の構築や連携体制について活発な議論がなされ、最後に鈴木直大阪大学理事・副学長が環太平洋地域の研究機関による更なる共同研究の推進、及び引き続きインドネシア、チリ、台湾において今後も毎年開催予定の自然災害に係るAPRU/AEARUリサーチシンポジウムの発展並びに各加盟校の積極的な参画を呼びかけ、閉会となりました。

大阪大学サンフランシスコ教育研究センターが現地開催準備を行い、「1906年サンフランシスコ大地震100周年事業」とも連動のうえ実施されたこのシンポジウムには、公開講座への20名のサンフランシスコ市民に加え、APRU/AEARUの加盟校を中心に6カ国29機関から76名、計96名もの参加者を得ました。



主催：大阪大学、カリフォルニア大学バークリー校
共催：日本学術振興会(JSPS) 地震工学研究所(EERI) UCバークリー地震工学研究センター、大阪サンフランシスコ姉妹都市協会
実行委員長：谷本親伯

大阪大学大学院工学研究科教授
Prof. Nicholas SITAR
UCバークリー地震工学研究センター長
室岡義勝
大阪大学サンフランシスコ教育研究センター長
(研究推進・国際部国際交流課)

大学院工学研究科並びに工学部と韓国・金烏工科大学校との学術交流協定締結

豊田政男大学院工学研究科長・工学部長及び馬越佑吉理事・副学長の2名が、4月24日(月)に韓国・龜尾市にある金烏工科大学校を訪問し、崔桓学長との間で部局間学術交流協定を締結しました。

金烏工科大学校は、韓国で唯一の国立の工学系単科大学で、国家産業団地が誘致され発展の著しい龜尾市に1997年に設置され、工学分野、特に電気・エレクトロニクス関連などの地場産業との連携を活発に行ない、また国立大学評価事業における優秀大学として多年に渡って選定されており、工学分野での高い評価を受けている特徴ある大学です。

調印式は、金烏工科大学校本部会議室において、同大学校から崔桓学長をはじめとする研究・教育の管理担当教授などが出席し、国際交流担当の金教授の司会のもと厳粛に行われました。調印に先立って、豊田研究科長・工学部長及び崔学長の式辞が述べられ、続いて、両大学の今後の交流の活性化、その手法などについて意見交換が行われ、最後に主な出席者による記念撮影を行い調印式を終了しました。

(大学院工学研究科・工学部)



協定書を披露する豊田研究科長・工学部長(左)と
崔桓金烏工科大学長(右)

酸素欠乏事故防止講習会(豊中地区)の実施

安全衛生管理部では、4月20日(木)15時から理学部D棟501大講義室において、また、4月28日(金)15時から基礎工学部B棟3階大講義室において、酸素欠乏事故防止講習会を実施しました。

この講習会は、NMR、MRI等の超伝導磁石、大型クライオスタットのユーザー及び液体窒素、液体ヘリウムを大量に取り扱う学生、教職員を対象に酸素欠乏の危険性を理解し、事故防止や安全意識の向上に役立ててもらうために実施したものです。

講習会には、両日あわせて261人の参加があり、講師の安全衛生管理部・山本 仁助教授から、NMR等のクエンチ事故による酸素欠乏の危険性、関係法令、事故防止上の注意点、保護具の取り扱いについて説明がありました。

(安全衛生管理部)



山本助教授による説明

第1回大阪大学ホームカミングデイ開催

(トピックスからの続き)

当日は好天の下、卒業生、名誉教授及び教職員OBら約200名が参加し、イ号館講堂において記念式典が開催されました。鈴木理事・副学長の司会により式典が始まり、まず主催者を代表し、宮原秀夫総長から歓迎の挨拶と法人化後に取り組んできた教育、研究等について近況報告がありました。引き続き、同窓会連合会会長である熊谷信昭元総長から「卒業生とその家族、祖父母、孫に至るまで『大阪大学ファミリー』として来年以降も元気に一緒にこの場所に集いたい」と結束の誓いと激励の言葉が述べられました。

式典終了後は、学生交流棟「宙sora」で記念レセプションが行われ、同窓会連合会副会長である金森順次郎元総長の挨拶と乾杯の後、学生サークル(軽音楽部)の軽快なジャズ演奏をバックに参加者が近況を語り合い、久しぶりに見るキャンパスの変貌ぶりや、熱気溢れる大学祭の様子に驚いたり、昔を懐かしむ姿が見られ、終始和やかな雰囲気の中、互いの活躍と母校の発展を祈念しつつ次の回の再会を誓い合いました。

当日の詳しい様子は、同窓会連合会のホームページをご覧ください。

<http://www.osaka-u.ac.jp/jp/dousoukai/top.html>



笑顔で乾杯の挨拶を述べる金森元総長

(総務部企画推進課)



当日、熊谷元総長(同窓会連合会会長)は、宮原総長と、リニューアルされた阪大坂や待兼山修学館を視察されました。

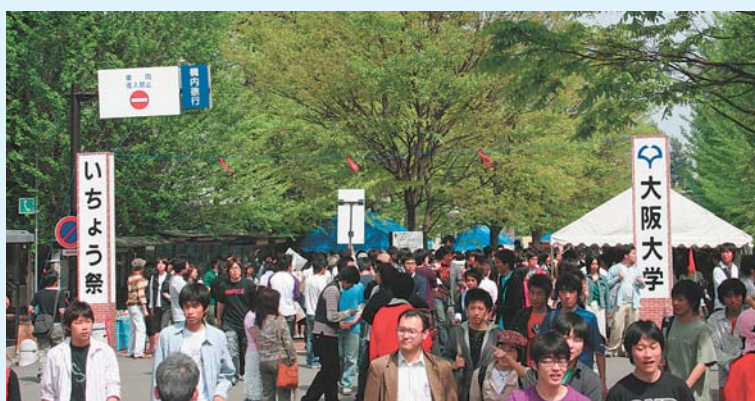


いちよう祭開催

4月30日(日)及び5月1日(月)に、本学の創立記念日を祝し、「いちよう祭」が開催されました。

これは、全学を挙げて新入生を歓迎するとともに、教職員、学生の親睦を図ることを目的として毎年開催されるもので、新入生、保護者のほか、大阪府下の各高等学校など学外の方々へ広く参加を呼びかけ、各部局開催の施設開放・展示会・講演会等に多数の参加者が訪れました。

(総務部総務課)



OUCE第2回演奏会開催

OUCE（大阪大学室内楽アンサンブル、Osaka University Chamber Ensemble）の第2回演奏会が、いちよう祭関連行事として4月30日（日）14：00 - 16：00、大阪大学コンベンションセンターMOホールで開催されました。昨年4月に設立し初めての演奏会を11月2日（火）に開催し、大学関係者を中心に約220名の方に参加いただきました。今回は日曜日午後の演奏会でしたので、前回のように大学関係者の多数の参加が期待できず、どれだけの方に聴きにきていただけるか不安でしたが、200名あまりの参加者がありました。大半の方は近隣にお住まいの方で、学外からこれだけの方にご参加いただけたことは予想外のことであり、メンバー一同大感激でした。メンバーの口コミ活動も熱心にやりましたが、いちよう祭関連行事として事務局評価・広報課が案内パンフを学内外各所においていただいたことや、大阪大学のホームページに掲載していただいたことが効果的だったことが、アンケート結果から分かりました。アンケートには色々貴重なご意見をいただき、また第1回の演奏会よりレベルが上がったという評価も複数の方からいただきました。これを励みに、今後も大学祭関連イベントの演奏会を中心に活動していきたいと考えておりますので、ご支援いただきますようよろしくお願い申し上げます。次回は10月末か11月はじめを予定しております。

なお、この演奏会を開くに当り、事務局総務課及び大阪大学後援会よりMOホール使用について一方ならぬ便宜をはかっていただきました。厚く御礼申し上げます。

また、いちよう祭期間中に行われた産業科学研究所一般公開の中で、「お昼休みのロビーコンサート」を、5月1日（月）12：00 - 13：00、産研講堂前ロビーで行いました。弦楽四重奏など3曲を演奏し、80名を超える方に聴いていただきました。

演奏会の様子はホームページ（<http://www.mls.eng.osaka-u.ac.jp/ensemble/>）をご覧ください。

（OUCE）



第2回演奏会を終えて

起震車体験イベントの実施

安全衛生管理部では、いちよう祭当日の5月1日（月）13時30分から基礎工学部北側において、起震車体験イベントを実施しました。

このイベントは、豊中市北消防署の協力を得て、学生、教職員に地震の模擬体験ができる起震車に乗っていただき、地震時に備えるべき知識を習得していただくために実施したものです。

当日は、約200人の方に起震車体験をしていただきました。

（安全衛生管理部）



起震車体験の様子

人権問題に関する映画会開催

人権問題に関する映画会が、5月1日(月)に基礎工学部国際棟シグマホールで開催されました。

この映画会は、人権問題啓発行事の一環として毎年行っ



沓澤隆司委員

小磯憲史委員

ているもので、今年度は人権問題全般について認識を深めてもらうため、次の4作品を上映しました。

「こころの交響楽」(人権問題全般)

「ぬくもりの彩」(高齢者及び同和問題)

「セクシュアルハラスメントを考える」(セクハラ問題)

「とよなかだいすき でも...」(在日外国人問題)

午前・午後2回の上映で、教職員・学生など約80名の参加者があり、最後まで熱心に映画を鑑賞しました。

なお、当日は、上映に先立ち人権問題委員会委員による上映映画選定についての説明が行われました。

(総務部総務課)

体育会五賞および課外活動総長賞の表彰

5月1日(月)に体育会五賞、ならびに課外活動総長賞の表彰式が行われました。好天にも恵まれ、厳かな雰囲気の中、表彰式は行われました。

今回の体育会五賞は以下のクラブが受賞しました。

赤堀賞 少林寺拳法部

赤堀賞とは、年間最優秀クラブに贈られる賞です。少林寺拳法部は世界大会女子式段の部において岡路・徳永・吉松組が最優秀賞を獲得するという輝かしい成績を収めました。

会長賞 フィギュアスケート部 梅谷英生選手

会長賞とは、年間最優秀選手に贈られる賞です。フィギュアスケート部の梅谷英生選手は国民体育大会スケート競技会にて4位に入賞するなどの素晴らしい成績を収め、昨年に引き続きの受賞となりました。

熊谷賞 スキー部 山河智美選手

熊谷賞とは、年間最優秀女子クラブもしくは選手に贈られる賞です。スキー部の山河智美選手は全関西学生スキー選手権大会においてアルペンという強豪選手が揃った種目の中で部史上初のポイントを獲得するという素晴らしい成績を残しました。

釜洞賞 航空部

釜洞賞とは、年間で最も特色のある活動を行ったクラブに贈られる賞です。航空部は6年間の構想の末に、クロスカントリーと呼ばれる滑空方法で2つの飛行場間を飛行することに関西で初めて成功しました。

山村賞 該当なし

山村賞とは、七大戦において顕著に活躍したクラブ、とりわけ前年度より著しく順位が上昇したクラブに贈られる賞です。残念ながら、今年度の受賞クラブはありませんでした。

また、学生の課外活動の充実と更なる活発化を図ることを目的として、特に優れた活動を行った学生団体等を表彰するため、平成12年度に制定された「課外活動総長賞」は、広く本学の全課外活動団体(文化系・学部公認団体・非公認のサ・クル団体まで含めて)に公募を募り、選考の結果、以下の団体等が第7回「課外活動総長賞」を受賞しました。

優秀賞：少林寺拳法部、スキー部、航空部、フィギュアスケート部 梅谷英生選手

特別賞：硬式野球部、サイエンスクラブ、創作人形劇団せせくらせ、国際法学会

(学生部学生支援課)



接合科学研究所消防訓練実施

接合科学研究所では、5月1日(月)午後2時から実験棟横駐車場において、学生・教職員を対象に消火器を用いた消防訓練を実施しました。

野城 清所長の挨拶の後、大阪府消防協会加入業者から初期消火の重要性についての説明並びに粉末消火器の使用上の注意及び使用方法の指導があり、実際に消火器を使った消火訓練を行いました。

参加した学生・教職員は実際に消火器による消火を体験し、あらためて火気の取扱いについては充分注意することを確認し、無事消防訓練を終えました。

(接合科学研究所)



第4回日中学長会議出席及び中国の大学との交流

第4回日中学長会議が5月9日(火)から11日(木)までの間、中国・西安市で西安交通大学を当番校として開催され、本学から、鈴木 直理事・副学長が総長代理として出席しました。

今回は、グローバル化における日本と中国の大学の協力及び交流を主要テーマとし、日本から国立大学12大学、私立大学3大学、文部科学省、日本学術振興会及び大学評価・学位授与機構並びに中国から16大学、教育部(日本の文部科学省に当たる。)及び国務院学位委員会等から学長等が出席しました。

開会に先立って、章 新勝教育部副部長及び近藤信司文部科学省文部科学審議官がそれぞれ高等教育の現状等について講演し、その後、セッション毎に決められたテーマに沿って、発表及び意見交換が行われました。

鈴木副学長は、これらの意見交換に参加するとともに、各大学長等との懇談を通じて、教育研究の現状及び中国の大学との交流推進に係る本学の活動状況を説明し、今後の発展への相互理解を深めることに大きな役割を果たしました。

また、会議の最終日に行われた北京大学の許 智宏学長との個別懇談では、同大学との学術交流協定の更新に係る

署名調印の交換に当たり、宮原秀夫総長からの交流協定更新についての同大学長あての書簡を鈴木副学長が代読の上手渡し、宮原総長署名の協定書に許学長が署名して、本学との研究及び学生交流の具体的な交流の現状並びに交流推進を確認するとともに、今後の発展に向けた意見交換が行われました。

(研究推進・国際部国際交流課)



北京大学との交流協定書交換
(左から鈴木副学長、許北京大学長、
李 岩松北京大学国際合作部長)

大阪大学とアーヘン工科大学との共同シンポジウム開催

5月11日(木)及び12日(金)の両日に第1回の大阪大学とアーヘン工科大学共同シンポジウムがドイツ・アーヘン工科大学で開催されました。

このシンポジウムは、平成17年9月5日に大阪大学とアーヘン工科大学との間に大学間交流協定が締結されたことを受け、研究者レベルで相互に知り合う必要性を強く意識して、大学間の交流を実質的に進めていくことを目指すこととし、これまで交流実績のある生物系・化学系を中心としてシンポジウムが開催されることになりました。

本学からは、10名(基礎工学研究科4名、工学研究科3名、薬学研究科1名、産業科学研究所1名、グローニンゲン教育研究センター1名)が参加し、アーヘン工科大学からは講演者として13名が参加したほか、アーヘン工科大学の大学院学生を含む研究者が多数出席し、活発な意見交換が行われました。

初日夕方には、同大学主催による懇談会が開催され、シンポジウムの参加者だけではなく、招待された日本学術振興会ボンセンター長、JETRO デュッセルドルフセンター

長及びアーヘン市役所関係者も参加し、分野を越えた意見交換や大学との産学連携等幅広い交流の可能性について議論が行われました。

なお本シンポジウムに対しては、グローニンゲン教育研究センターが現地で広報等の支援を行いました。

(研究推進・国際部国際交流課、大学院基礎工学研究科)



アーヘン大学学長及び本学シンポジウム参加者

基礎工学研究科・基礎工学部初任教員研修会実施

基礎工学研究科では、「平成18年度基礎工学研究科・基礎工学部初任教員研修会(初任者FD)」を5月15日(月)基礎工学研究科A棟2階会議室において行いました。

この研修は、新たに赴任され基礎工学研究科・基礎工学部の教育研究を担当することになられた教員を主な対象に、大阪大学・基礎工学研究科・基礎工学部の現状についての認識を深めるとともに、併せて大学教育を担当する教員として、教育に関する力を高めることを目的に平成15年か



ら実施しているものであり、今年度の研修には、基礎工学研究科、情報科学研究科、極限量子科学研究センター及びナノサイエンス・ナノテクノロジー研究推進機構から26名の教員(教授4名、助教授7名、講師1名、助手14名)の参加がありました。

当日は、鈴木直理事・副学長による「大阪大学の教育・研究の目標と運営の方針」の講演に始まり、畑田耕一名誉教授(元副学長 現福井工業大学教授)による「大阪大学の歴史」の後、西田正吾研究科長による「基礎工学部の概要」、佐藤宏介教授による「基礎工学部の教育」、増澤利光教授による「基礎工学部の入試」、大澤眞一事務長による「大阪大学と基礎工学研究科の事務処理」、白旗慎吾教授による「セクハラ・アカハラ防止の重要性」と続き、最後に北岡良雄教授による「施設の適切な管理等」についての説明が行われ、参加した26名の教員は受講生という立場でメモを取りながら熱心に聞き入っていました。

講演等の終了後は質疑応答が行われ、活発な意見交換・情報交換の場となり、研修会は盛況のうちに終了いたしました。

(大学院基礎工学研究科・基礎工学部)

歯学部附属病院で「ふれあい看護体験」実施

歯学部附属病院では、恒例の5月12日の「看護の日」にちなんで5月16日(火)に『看護の日のイベント』を、翌17日(水)に『ふれあい看護体験』を実施しました。

『看護の日のイベント』では「食べることを生きる力に」をテーマに嚥下食の展示・紹介・試食と管理栄養士による相談もおこない、栄養相談では、ひとり暮らしの男性患者が、食事について相談している光景もありました。また、看護師による血圧や体脂肪の測定等健康チェックや健康相談もおこない、特に今回は、メタボリックシンドロームについて詳細な説明と歯周病疾患とのつながりや適正な口腔ケア指導と相談もおこない、250名近くの患者様の参加があり盛況でした。

一方、『ふれあい看護体験』は、看護師を目指す28歳女性の1日看護体験を受け入れ、生命の尊さや看護と介護の大切さを感じ取り、将来目指している看護師の役割を少しでもわかっていただくことを目的におこなわれました。入院患者との談話や洗髪、清拭、経管流動食の準備、食事の配膳、手術室の見学、実際に病院食の試食もして、体験者



からは「ここに来て本当に良かったという患者の言葉から患者と看護師の信頼関係が深くつながっているように思った」や「看護師になりたいという気持ちが一層強くなった」、「今日学び得たことをこれからに生かしていきたい」という感想がありました。

(歯学部附属病院)

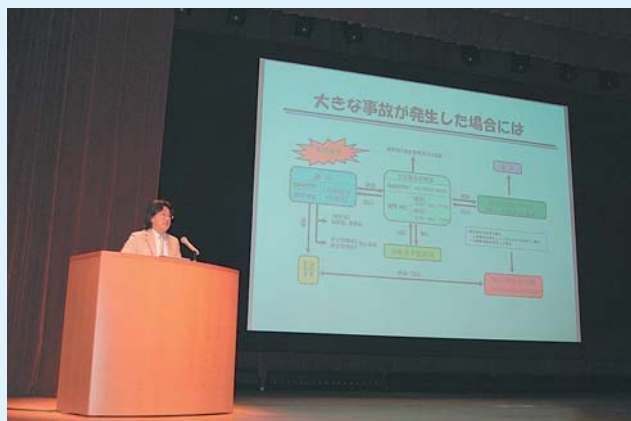
新入職員に対する安全衛生講習会の実施

安全衛生管理部では、5月18日(木)10時からコンベンションセンターMOホールにおいて、新入職員に対する安全衛生講習会を実施しました。

この講習会は、平成17年5月以降に本学の教職員となられた方を対象に安全衛生の重要性を理解していただくために実施したものです。

当日は、約300人の参加があり、講師の安全衛生管理部・太刀掛俊之助手からは「労働安全衛生法令」及び「学内における取り扱い、事故防止」について、また、保健センター・西田 誠助手からは「健康管理」について説明がありました。

(安全衛生管理部)



太刀掛助手による説明



西田助手による説明

人間科学研究科・AED取り扱い講習会の開催

人間科学研究科では、教職員を対象としたAED（自動体外式除細動器）の取り扱い講習会を、本研究科ユメヌスホールにて5月25日（木）に開催しました。

この講習会は、全学で順次設置される予定のAEDが、本年3月に本研究科に設置されたことに伴い、広く教職員にその使用方法について周知するため、人間科学研究科の安全衛生委員会及び安全衛生管理部が中心となって実施したもので、約60名の参加者がありました。

講習会では、本研究科AEDの設置メーカーである日本



ダミー人形を用いた説明の様子

光電工業（株）の担当者を講師として迎え、使用手順及び使用上の注意点等について、ダミー人形を用い実際にAEDを作動さ



講習会の様子

せながら詳細な説明が行われました。

講習会の最後には、実際の使用時を想定した質問や専門的な質問が多く出されるなど活発な質疑応答が行われ、予定の時間を大幅に超過し、各教職員のAEDに対する意識の向上が感じられる有意義な取り組みとなりました。

（大学院人間科学研究科・人間科学部）

第2回京都大学・大阪大学合同イベント開催

大阪大学大学教育実践センターと京都大学高等教育研究開発推進センターが主催する第2回京都大学・大阪大学合同イベント「夢探しをしている君へ～学生の夢をつむぐ大学～」が、5月27日（土）13時から大阪大学豊中キャンパスの大学教育実践センター講義棟を使って開催されました。このイベントは、古くから関西の国立大学の両雄として、お互いの大学の個性を認めあい、互いに刺激しあう学生間の教育交流を行うために企画されたものです。今年は、「夢に向かって一生懸命学んでいる大学生」にスポットライトを当て、「自分の夢」や「大学での学び」をテーマとして開催されました。

イベントは、宮原秀夫大阪大学総長の歓迎の挨拶で始ま



りました。第一部の全体講演では、4名の大学院生・卒業生の講演があり、馬淵恵里さん（大阪大学大学院文学研究科修士課程2年）は「カナダ留学体験」を、中田慎也さん（大阪大学大学院工学研究科修士課程1年）は「本の出版体験」を、藤井進也さん（京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程2年）は「趣味のドラムと研究の結合体験」を、小笠原圭さん（2005年京都大学卒業 株式会社レコフ開発一部）は「社会に出てお金を稼ぐための大学生活」をそれぞれ、真摯に熱く語りました。講師はいずれもプレゼンテーション能力に優れており、聴衆を引き込む興味深く刺激的な内容で、「夢探しのためには、失敗や挫折を恐れず、まず新しい一歩を踏み出すことが必要」という共通のメッセージが語られ、講演会場は立ち見が出るほどの盛況で、最終的な参加者は124名でした。

第二部では、4つの分科会に分かれて、講師と教員のコメントーターを中心として、さらに具体的な討論が行われました。どの会場でも、大変活発な討論が行われ、90分の時間が短く思われたという感想がありました。

さらに、会場を学生交流棟の「宙（そら）」に移して、懇親会が開催されました。こちらへも62名の参加者があり、大阪大学と京都大学の教育交流を実りあるものにすることができました。

（大学教育実践センター）

美術制作者の立場から見た美術史研究とその意味

大学院文学研究科教授 若山 映子

祈りと黙想の場である礼拝堂の装飾は、単なる美的鑑賞の対象ではない。それらを手懸けたルネサンス期の美術家は、造形的なあらゆる手法・手段を駆使して、依頼主が作品をとおして観者に伝えようとした思想の美的表現に努めた。したがって彼らの制作意図と作品の美的本質の理解には、作品に密着して掌握しうる諸特性を他の作品と比較検討しながら、彼らを取り巻く政治・文化的環境、注文主の信念や社会的な位置、歴史上の出来事、作品が配された場、各場面の相互関係など、作品の全体構想に関わる諸要素を綿密に調査して、特定の技法、図像や構図、配色が採用された理由を明らかにする必要がある。そうした総合的な研究によってこそ、作品の芸術性という価値判断も可能になるのである。

そうした角度から、諸礼拝堂の天井壁画とその制作にまつわる、かつては看過されてきた諸点を指摘・分析しながら、作品の原典であるテキストから乖離した図像をもつ絵画の解読法と新解釈を提唱した。さらに、いかに実証的に論じたとしても仮説の域を出ない美術史研究の意味は、作品に肉迫した解釈によって、先達の文化遺産から我々が何を学ぶうかを考えさせるところにあると論じた。



わかやま・えいこ

プロフィール

略歴：昭和40年3月京都市立美術大学（現・京都市立芸術大学美術学部）西洋画科卒業、昭和43年11月からイタリア共和国、ミラノ・カトリック大学文・哲学部において美術理論・評論史を専攻し、昭和45年11月論文公開審査の結果 cum laude の評価を得て Dottore in Lettere の学位を取得し退学。昭和46年11月同大学文・哲学部助手（美術理論・評論史）、昭和51年4月大阪大学文学部助手（美学、美術史第二講座）、昭和56年4月福井大学教育学部助教授（美術科）、昭和62年1月同教授、平成2年4月大阪大学文学部助教授を経て平成8年1月同教授に昇任。15～17世紀イタリア美術を中心に研究し、マゾリーノ、マザッチョ、アルベルティからカラヴァッジョまでの論文を伊文、和文で発表。平成10年ロンバルディア美術史研究所功績賞（イタリア）を受賞。平成17年11月に20年間の研究の集大成である『システィーナ礼拝堂天井画—イメージとなった神の慈悲—』を刊行した。イタリア学会評議員、同編集委員、ロンバルディア美術史研究所（イタリア）刊行の美術史専門誌 Arte lombarda の審議委員（現在に至る）、福井県立美術館運営協議会委員、兵庫県立近代美術館（現・兵庫県立美術館）審美委員会委員などを務めた。

双極性活性種の発生とヘテロ環合成 — ヘテロな夢を追いかけて —

大学院工学研究科教授 小松 満 男

ヘテロ環化合物は、ヘテロ原子を環骨格に含む有機化合物の総称である。天然、人工物を問わず、身の回りには多くのヘテロ環化合物が存在し、生理活性、色、味、臭いを発現したり、導電性や蛍光特性など、様々な機能を示す。このような魅力的な化合物を、より効率的、かつ容易に合成することのできる新しい活性種の発生法とその応用を探索してきた。中でも、1,3-双極子の発生法の開発は、系統的かつ深く研究することができた。本講義では、シリル基やスタニル基の1,2-あるいは1,4-転位による様々な1,3-双極子の発生とシクロ付加への応用を初めとして、これまでに見出した反応活性種発生法と、それらを利用した多様なヘテロ環の合成について説明した。

ヘテロ環の合成研究は長い歴史をもっているが、現在でも優れた医薬品や機能性化合物開発のために、常に新しい合成法が求められる分野である。今後も、これまでの蓄積を土台として、さらにヘテロ環合成の分野が発展することを切に願う。



こまつ・みつお

プロフィール

略歴：昭和42年大阪大学工学部応用化学科を卒業、昭和44年同課程を修了、同年大阪大学工学部助手に採用。昭和49年工学博士（大阪大学）の学位を取得。昭和61年同助教授を経て、平成6年同教授に昇任し、精密合成化学講座を担当。平成7年の大学院重点化に伴い、応用有機化学講座を担当。平成10年4月同大学大学院工学研究科教授に配置換えとなり、平成17年から物質機能化学講座を担当した。専門はヘテロ環化合物合成法および新機能の開発。学内では環境安全管理センター長、工学研究科財務室室長などを務め、学外では日本化学会近畿支部長や日本油化学会副会長、近畿化学協会副会長、有機合成化学協会関西支部長などを歴任した。

政策学にディシプリンはあるのか？

大学院国際公共政策研究科教授 橋 本 介 三

オーストリア学派のプロセス理論を応用した「経済圏の運動理論」や「サービス経済」の分析、「市場過程分析と合理性の概念の拡張」や「組織と市場のインターアクション」の分析を踏まえて、なぜ固有の「政策学」は存在しないのか考えてみたい。

経済政策学の確立に寄与したJ. Tinbergenは、「目標xの達成には手段yが有効であるという政策命題は、原因yがあれば結果xが生じるという実証命題の裏返し」と主張した。しかし、理論とは反証に耐えた科学的一般命題（フィクション）をさすが、政策発動は現実に対する働きかけ（事実）であるから、時間とともに多数の主体が動き出し、実証命題の裏返し（因果関係の逆転）によって理論の前提条件が崩れ始める。

もう一つ、科学的方法論が機能しにくい理由は、反証手続きが難しく、事実と認識の間に絶えず主体の主観が入り込むからである。政策学の対象は人間の行為であって、行為とは対象に対する主観的解釈に基づいて、未来に向けて現在の対象に働きかけることに他ならない。今後、このような行為を分析し、知識を体系的に蓄積できる政策学のディシプリンへの要請が強まるであろう。



はしもと・よしぞう

プロフィール

略歴：昭和17年生まれ。昭和41年同志社大学経済学部卒業。同年大阪大学大学院経済学研究科に入学し、昭和43年3月経済学修士。昭和43年7月大阪大学大学院経済学研究科博士課程退学後、昭和43年8月岡山大学法文学部助手・講師、同大学経済学部助教授を経て、昭和55年4月同大学同学部教授に昇任。平成4年4月大阪大学教養部教授に配置換え。平成6年4月同大学大学院経済学研究科教授を経て、平成6年6月同大学大学院国際公共政策研究科教授に就任。平成8年10月岡山大学名誉教授。数々の地域計画の立案・調査に参画。池田市、伊丹市、大阪府堺北エリアの委員長などを歴任、財務省・独立行政法人評価委員会委員、同日本万国博覧会記念機構分科会長。平成15年4月からは大阪府立産業開発研究所所長。

「光、この不思議なもの」

大学院基礎工学研究科教授 小 林 哲 郎

「〇〇研究を振り返って」形の最終講義では私を知る皆さんは失望するでしょうから、永い研究生生活を通じてずっとまなぬ不思議な「友人」であり続けた「光」について、私が今も少年のようになぜだろうと疑問に思っていることをこの講義で提起し、皆さんと一緒に考えることとしました。皆さんへの宿題付き未来志向型の最終講義です。提起した疑問は専門家でない皆さんにも十分に理解できるもので、多くは一応答えが出されているものなのですが、未だに私が十分に納得できていないものです。

講義では、まず、最初に昔の人々が光をどのように捉えていたかを、人麻呂等の歌や故事などから推測することから始め、近代の光学研究が現代物理やエレクトロニクスの基礎となっていることを紹介して頭をほぐしてもらいました。

本題に入って、最初に干渉の問題を取り上げました。「干渉でなくなるのはほんとうに何もなくなるのか？」、「多波源のコヒーレント干渉では波源の仕事はどうなるのか」などを、光波と同じ波仲間の音波も一緒に考え、楽器の同時演奏なども類例としてあげ提起しました。ついで光子仮説への疑問で、物質との相互作用である光放射や検出の過程以外での粒子性の必然性に疑問を示し、加えて、干渉性「波動性」と粒子性両立矛盾も提示しました。次に「なし」とされている光の質量を「ある」として、その所属場所推定の思考実験を述べました。最後に光路長変化による連続光ビームの密度変調、位相、周波数変調（ドップラー効果）と光子エネルギー変調、光の強度変調への転化に矛盾が生じることなどを議論しました。会場に質問をぶつけれたりもしましたが、結局、解答は返ってこず、今後の宿題としました。



こばやし・てつろう

プロフィール

略歴：昭和40年大阪大学工学部電子工学科卒業、昭和42年同大学院修士課程修了、昭和45年4月大阪大学基礎工学部助手、同月工学博士、昭和51年同助教授、昭和59年～60年スタンフォード大学客員研究員、平成3年教授に昇任、平成12年～平成14年大阪大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー、ラボラトリー長を併任。専門はレーザ工学、光エレクトロニクス（超高速光制御、量子光制御、立体画像など）。電子情報通信学会およびIEEEのフェロー、レーザー学会評議員、理事、関西ベンチャー学会創立時理事、放射科学研究会理事を歴任。市村学術貢献賞、応用物理学会光量子エレクトロニクス業績賞等を受賞。

最適制御の理論と応用の足跡を振り返って

大学院基礎工学研究科教授 藤 井 隆 雄

我が国が高度成長期を迎え、オートメーションという言葉をよく耳にするようになった1960年代初めに、当時としては目新しかった制御工学という学問に興味を惹かれ、基礎工学部制御工学科に入学した。それ以来、学生時代も含めて38年も大阪大学にお世話になった。最終講義では、本学および九州工業大学で過ごした36年間を振り返り、制御工学の分野で最も力を注いだ最適制御の理論と応用に関する研究の足跡を辿った。

最適制御理論では、その中心をなす最適レギュレータ問題について様々な研究を行い、最適制御が究極の制御性能（完全制御）を発揮するための必要十分条件などを明らかにした。また、この問題の陰でほとんど注目されなかった「その逆問題」に注目し、初めてその完全解を与えるとともに、その結果をフィードバック系の感度に関連づけて解釈し、最適制御の工学的意義を明らかにした。

つぎに、最適制御の逆問題にヒントを得て、最適レギュレータを逆問題の観点から設計する「最適レギュレータの逆設計理論」を構築した。この設計理論は、全く新しい発想の最適制御系設計法（通称ILQ設計法）を生み出した点で特筆すべき価値がある。本設計法は、従来の最適制御系設計法に比べて、設計を容易にする様々な工夫が施こされ、その実用性の高さから種々の実システムの制御問題に応用されてきた。特に、鉄鋼の圧延制御では多くの鉄鋼メーカーで採用され、諸外国に比べて格段に優れている我が国の高級鋼板製造技術に貢献している。講義では、本設計法の理論的な発展に、多くの人達の協力を得たこと、企業との共同研究や講習会での体験が役に立ったこと等を力説し、最後に、ILQ設計法の理論的発展と応用に関係した人達に心からの感謝の意を表した。

最適制御の逆問題の研究に魅了され、はじめはその一般化を目指し、苦労した末に満足できる一つの結果を得た。その後たどり着いたのが最適制御の逆設計理論であった。この設計法が、外国に類例を見ない我が国固有の設計法であることに、我ながら誇りを持っている。



ふじい・たかお

プロフィール

略歴：昭和42年大阪大学基礎工学部制御工学科卒業、44年修士課程修了、同年8月博士課程を中退。同年9月基礎工学部助手、58年工学博士（大阪大学）、63年本学工学部電子制御機械工学科助教授、平成2年九州工業大学情報工学部教授に昇任。その後、平成7年本学基礎工学部教授に配置換、平成9年基礎工学研究科教授、平成15年同研究科システム科学領域教授としてシステム理論講座を担当。日本学会議研究連絡委員会委員、計測自動制御学会評議員、システム制御情報学会の評議員、理事を経て現在は副会長。国際会議（MTNS91, CDC96）組織委員、英文誌AJCの編集委員など。

春の褒章と叙勲

平成 18 年度の春の褒章及び叙勲受章者が発表され、本学関係の受章者は次の方々です。

原 田	明	(大学院理学研究科教授)	紫綬褒章
平 野	俊 夫	(大学院生命機能研究科教授)	紫綬褒章
小 野	茂	(名誉教授)	瑞宝中綬章
堺	章	(名誉教授)	瑞宝中綬章
信 多	純 一	(名誉教授)	瑞宝中綬章
園 田	孝 夫	(名誉教授)	瑞宝中綬章
垂 井	清一郎	(名誉教授)	瑞宝中綬章
中 林	敏 夫	(名誉教授)	瑞宝中綬章
藤 田	英 一	(名誉教授)	瑞宝中綬章
三 石	明 善	(名誉教授)	瑞宝中綬章
山 本	和 則	(元経理部自動車運転手)	瑞宝単光章
白 田	美保子	(元医学部附属病院副看護部長)	瑞宝単光章

國井和郎名誉教授 フランス共和国トゥールーズ第 1 大学から 名誉法学博士の称号を授与

國井和郎名誉教授は、3 月 3 日(金)にフランスのトゥールーズ第 1 大学から、名誉法学博士の称号を授与されました。トゥールーズ第 1 大学は、1229 年に創設された世界で最も古い大学の一つであるトゥールーズ大学が、1969 年の再編後に法学部を中心とした社会科学系の研究教育機関として創設されました。このような伝統のある大学から名誉学位を授与されることは、日本人では二人目で、前日仏法学会理事長の山口俊夫東大名誉教授が 1984 年に授与されて以来約 20 年ぶりの快挙です。

國井名誉教授のこれまでのフランス法に関する研究、とりわけ不法行為における研究が、名誉学位審査で高く評価されました。被害者救済を旨とする問題発掘に努め、加えて伝統的法理論の再評価、現代的再構築を被害者救済に投影し、正当化する研究が、日仏比較法的研究の結実であると称賛を受けました。

授与式は、大学の講堂で行われ、ジャック・ラリュー教授による功績の紹介と國井名誉教授による講演がなされました。講演で、國井名誉教授は、不法行為における理論の重要性を説かれ、フランスの学者にも深い感銘を与えました。同時に、永年に亘る日仏学術交流に対して、ルスィオン学長から謝意が述べられ、その後、学長から、他の二人の教授とともに学位記が授与されました。合間には、トゥールーズ交響楽団のメンバーによるイ・ムジチの「四季」の演奏もなされ、会場は爽やかで厳粛な祝福の空気に満ちていました。

なお、この授与式の様子は、日本の新聞のみならず、地元の新聞にも大きく取り上げられました。

(大学院法学研究科・法学部)



國井和郎名誉教授

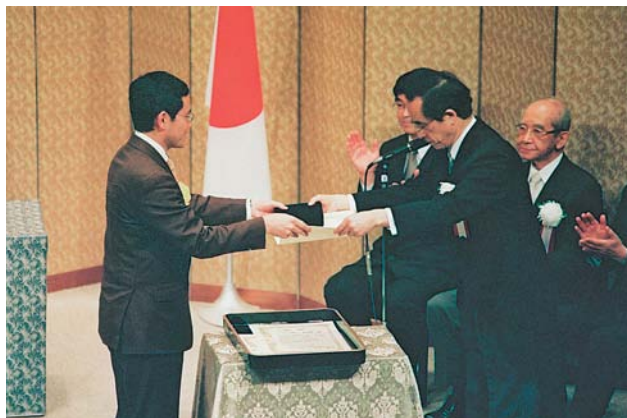


学位記を手渡すルスィオン学長

野地博行教授「第2回日本学術振興会賞」受賞

産業科学研究所の野地博行教授が、これまでの同人の研究業績である「ATP 合成酵素の新しい1分子生化学の展開」について評価され、「第2回日本学術振興会賞」を受賞しました。この賞は、創造性に富み優れた研究能力を有する45歳未満の若手研究者を対象とし、早い段階から顕彰しその研究意欲を高め研究の発展を支援していくことを目的として平成16年度に創設されたものです。第2回目（平成17年度）の今回は、人文・社会科学系、理工系の各分野において特に優れた若手研究者24名が表彰を受けました。授賞式は、3月9日（木）に日本学士院において秋篠宮殿下同席のもとで行われました。

（産業科学研究所）

三好隆志教授及び高谷裕浩助教授
ファナック FA ロボット財団「2005 年度論文賞・特別賞」受賞

大学院工学研究科の三好隆志教授及び高谷裕浩助教授は、ファナック FA ロボット財団より、「2005 年度論文賞・特別賞」を受賞しました。この賞は、ファクトリーオートメーション（FA）や産業用ロボットに関する優れた論文に贈る賞で、精密工学会、日本機械学会、日本ロボット学会、計測自動制御学会、電気学会から推薦のあった15件の論文を、独創性、工業化の可能性、工業化された場合のインパクトの3つの観点から選考するものです。第4回目となる今回は6件の論文賞が選ばれ、そのうち三好教授及び高谷助教授らの論文は特に優秀と判断され「特別賞」に選ばれました。

米国精密工学会（American Society for Precision Engineering）の論文誌 Precision Engineering に掲載された、当該論文「Optical 3D profilometer for in-process measurement of microsurface based on phase retrieval technique」は、光波位相回復法により微細加工した形状をナノメートルオーダの精度で三次元計測できることを実証したものです。本技術が実用化すれば、加工機上において微細加工物のインプロセス計測が可能になることから、超精密加工分野への貢献が大きいと高く評価されました。

授賞式は3月10日（金） ホテルオークラ（東京都港区）で行われ、高谷助教授が代表として出席し賞金300万円と賞状及び記念のメダルが授与されました。

（大学院工学研究科・工学部）



西山雅祥技術専門職員「日本化学会化学技術有功賞」受賞

3月28日(火)日本大学理工学部船橋キャンパスで開催された日本化学会第86春季年会で、工作センターの西山雅祥技術専門職員が日本化学会平成17年度化学技術有功賞を受賞しました。日本化学会化学技術有功賞は、化学および化学技術に関連する業務にあたり装置・器具の開発・改良、特殊技能などにより特に貢献のあった者に授与されるものです。西山氏は長年にわたり工作センターで“もの作り”およびその製品管理、テスト実験試料作成に不可欠な真空・低温技術や化学分析に携わり、本学の研究支援と教育支援に大きく貢献してきました。受賞題目は“化学研究・教育の支援を通じた技術改良への貢献”で、以下の主要な3つの業績が受賞対象です。西山氏は依頼業務の中で、(1)キシレノールオレンジ金属指示薬を用いた第二鉄イオンのエチレンジアミン四酢酸塩直接キレート滴定法を新たに発見しました。本滴定法は、理学部の化学系学生実験の課題として1999年まで採用され、現在も基礎工学部の学生実験で採用されています。(2)窒化鉄単相膜作成の高周波反応スパッター装置の開発を行いました。その装置によって、岩塩型純窒化鉄の単相膜の作成に初めて成功し、メスbauer分光及びX線回折によってこの膜は鉄と窒素の組成比が1:1の非磁性体であることを明らかにしました。(3)耐真空用の簡易型同軸ケーブル用コネクタの開発を行いました。新たに開発されたBNC真空コネクタは、本学の光焦電分光分析装置や弾性定数測定装置を用いた研究などに有用に利用されています。



(工作センター)

豊田二郎助教授「日本化学会功労賞」受賞

総合学術博物館の豊田二郎助教授が「日本化学会ホームページと年会登録システムの構築に対する貢献」により、第1回(平成17年度)日本化学会功労賞を3月28日受賞しました。

日本化学会功労賞は、日本化学会会員で、日本化学会の事業・運営等の活動に対し、顕著な功績があると認められる者に授与されます。この賞は平成17年度より新設されたもので、その第1回受賞者として授与されたものです。

豊田助教授は、平成7年より日本化学会ホームページの立ち上げに参画し、平成14年以降はホームページ管理委員会委員長としてホームページの構成、アクセシビリティ等の整備や運営等を今日まで献身的に行ってきました。また年会登録システムにおいては、平成7年よりWeb上の登録フォームを使って講演申込をアシストするシステムを他の学会等に先駆けて構築し、さらにPDFによる予稿原稿登録システム、参加登録システムも開発・運営を行ってきました。

毎年約8,600人が参加し、約6,000人が発表する日本化学会年会において、豊田助教授が開発・運用されてきた登録システムは、セキュリティと利便性、安定性の三つを兼ね備えた、非常に有用なシステムとなっていることが高く評価されました。

(総合学術博物館)



増原 宏教授「第58回日本化学会賞」及び「Porter Medal 2006」受賞

大学院工学研究科の増原 宏教授が、「第58回日本化学会賞」及び「Porter Medal 2006」を受賞しました。

日本化学会賞は、化学の基礎または応用に関する貴重な研究を行い、その業績が特に優秀な研究者に授与されるものです。

受賞は、『レーザーナノ化学：方法論の開発と分子系ナノダイナミクスの解明』に関するもので、「パルスレーザー、顕微鏡を巧みに組み合わせ、ナノ空間分解能をもつ分光法、計測法を開発し、新しいナノ化学現象を探索、計測、解明し、レーザーナノ化学の新研究領域を切り開いてきた」ことが評価されました。

なお、受賞式は日本化学会第86春季年会期間中の3月28日(火)に、日本大学理工学部船橋キャンパスで行われました。

また、ポーターメダルはノーベル賞受賞者の英国・George Porter 卿の功績をたたえ設立された賞であり、光化学の分野で優れた成果をあげた世界の研究者に2年毎に贈られる栄誉ある賞です。

増原教授の時間・空間分解光化学の開拓的研究が世界的に貢献したことが認められ、本学の又賀 昇名誉教授に続く日本人3人目の受賞となりました。

受賞式は、京都で開催された国際会議・XXIst IUPAC SYMPOSIUM ON PHOTOCHEMISTRY の最終日4月7日(金)に京都テルサで行われました。

(大学院工学研究科・工学部)



畑田耕一名誉教授「ポールJ. フローリー高分子研究賞」受賞

畑田耕一名誉教授が「ポールJ. フローリー高分子研究賞」を受賞されました。

高分子の物理化学の基礎を築いてその体系化に貢献し、1974年ノーベル化学賞を受賞したフローリー博士に因むこの賞は、国際高分子特性会議が2000年より授与を始めたもので、高分子の科学と技術の分野で卓越した業績をあげた研究者に与えられるものです。

畑田名誉教授は、これまでの高分子化学への貢献、特にアクリル酸エステル誘導体の立体特異性重合とポリマーの核磁気共鳴吸収法を用いる構造解析を駆使した高分子化学研究、さらには国際純正応用化学連合の高分子命名法委員会における活躍や登録有形文化財を通しての文化活動も高分子化学の教育と普及に貢献したことが認められたものです。日本人の受賞は東京工業大学名誉教授 安部明廣博士について二人目です。

なお、授賞式は4月17日(月)~21日(金)奈良女子大学で開催された第14回国際高分子特性会議において行われました。

(大学院基礎工学研究科・基礎工学部)



賞状



受賞式

西田正吾教授「船井情報科学振興賞」受賞

西田正吾大学院基礎工学研究科教授が、第5回船井情報科学振興賞を受賞しました。船井情報科学振興賞は、「情報技術に関する研究について顕著な功績のあった者」を褒賞し、わが国の情報技術に関する研究の向上発展に寄与することを目的とするもので、西田教授の受賞題目は、「ヒューマンコンピュータ交流技術の先導的研究」となっています。

西田教授は、人間のある側面を要素としてとらえるシステム技術の立場から、人間の支援に重点をおいたヒューマンインタフェースの研究に取り組み、特に認知工学、CSCW、コミュニケーション支援等の分野で顕著な業績を挙げてきましたが、それらの成果が評価されたものです。

贈呈式は、4月22日(土)に約130名の来賓および関係者が参加して京都ホテルオークラで行われ、船井情報科学振興財団の船井哲良理事長より賞状と副賞が贈られました。

(大学院基礎工学研究科・基礎工学部)



大阪大学共通教育賞表彰式挙行

大学教育実践センターでは、4月28日(金)に事務局301会議室において平成17年度第2学期大阪大学共通教育賞の表彰式を行いました。

この大阪大学共通教育賞は、全学共通教育の授業を担当する本学教員及び非常勤講師を対象として、優れた授業を実践した教員、優れた教科書等を著した教員、優れた著述を行った教員、並びに全学共通教育の実施運営に顕著な功労のあった教員を表彰することによって、共通教育の質的向上を図ることを目的に平成14年度に制定されたもので、今回が8度目の表彰となりました。この顕彰制度が教育評価の先駆的な試みとして、本学の教育の発展に寄与できることを願うものです。

大阪大学共通教育賞の選考は、全学の教員及び学生を対象に行ったアンケート結果に基づき、選考委員会において、教育上の多大な努力や優秀な教育技術等を総合的に評価した結果、8名の教員が選出されました。

表彰式では、宮原秀夫総長から表彰状と記念品の授与が行われ、鷲田清一理事・副学長、北見耕一理事・事務局長、高杉英一大学教育実践センター長、眞鍋昭治副センター長、和田榮史事務長も列席し、受賞者を祝福しました。

(大学教育実践センター)



平成17年度第2学期 大阪大学共通教育賞受賞者一覧

氏 名	所 属・職 名	氏 名	所 属・職 名
下 田 正	理学研究科 教授	坂 東 隆 男	大学教育実践センター 助教授
菊 池 和 徳	理学研究科 講師	北 岡 千 夏	大学教育実践センター 非常勤講師
MURAKAMI SMITH ANDREW LADD	言語文化研究科 助教授	長 岡 昇 勇	大学教育実践センター 非常勤講師
青 江 秀 史	高等司法研究科 教授	竹 蓋 順 子	サイバーメディアセンター 助教授

新部長紹介

近 藤 博 之 (こんどう ひろゆき)

大学院人間科学研究科長・人間科学部長



【略歴】

- 昭51. 3 東京大学教育学部教育学科卒業
- 53. 3 東京大学大学院教育学研究科教育学専門課程修士課程修了
- 55. 7 東京大学大学院教育学研究科教育学専門課程第一種博士課程退学
- 55. 7 大阪大学助手人間科学部
- 61. 4 静岡大学助教授人文学部
- 平 4. 4 大阪大学助教授人間科学部
- 8. 4 大阪大学教授人間科学部
- 12. 4 大阪大学教授大学院人間科学研究科
- 14. 4 大阪大学評議員(平16.3まで)
- 18. 5 大阪大学大学院人間科学研究科長・人間科学部長(平20.4まで)

武 田 裕 (たけだ ひろし)

中之島センター長



【略歴】

- 昭46. 3 大阪大学医学部医学科卒業
- 49. 4 大阪大学医学部附属病院医員
- 52. 8 米国シカゴ大学Post-doctoral-fellow
- 53.10 大阪大学医学部(第一内科学)研究生
- 54. 2 大阪大学医学部附属病院医員
- 54. 3 大阪大学助手医学部
- 58. 5 文部省学術国際局学術調査官
- 60. 8 大阪大学講師医学部
- 62. 4 大阪大学助教授医学部附属病院
- 平10. 4 大阪大学教授医学部附属病院
- 大阪大学医学部附属病院医療情報部長
- 13. 4 大阪大学教授大学院医学系研究科
- 15. 4 大阪大学医学部附属病院中央クオリティマネジメント部長兼任
- 15.10 国立大学病院医療安全管理協議会会長
- 17. 4 大阪大学医学部附属病院病院長補佐
- 18. 1 大阪大学中之島センター長(平19.12まで)

新施設長紹介

奥 山 明 彦 (おくやま あきひこ)

附属図書館生命科学分館長



【略歴】

- 昭46. 3 大阪大学医学部卒業
- 50. 5 大阪大学助手医学部
- 53. 2 医学博士(大阪大学)
- 58. 6 大阪大学講師医学部
- 平元. 2 大阪大学助教授医学部
- 3. 5 大阪大学教授医学部
- 3. 5 大阪大学医学部附属病院泌尿器科長(平12.3まで)
- 11. 4 大阪大学教授大学院医学系研究科
- 18. 4 大阪大学附属図書館生命科学分館長(平20.3まで)

新施設長紹介

遠山 正 彌 (とおやま まさや)

大学院医学系研究科附属子どものこころの分子統御機構研究センター長



【略歴】

- 昭47. 3 大阪大学医学部卒業
- 47. 4 大阪大学医学部附属高次神経研究施設神経解剖学病理学研究部に於いて研究に従事
- 47. 5 大阪大学助手医学部附属高次神経研究施設
- 55. 1 大阪大学助教授医学部附属高次神経研究施設
- 61. 4 大阪大学教授医学部
- 平11. 4 大阪大学教授大学院医学系研究科
- 11. 4 大阪大学大学院医学系研究科附属共同研究実習センター長 (平13.3まで)
- 11.11 大阪大学医学部附属動物実験施設長 (平13.10まで)
- 16. 4 大阪大学評価・広報室員 (平18.3まで)
- 17. 4 大阪大学大学院医学系研究科長・医学部長
- 18. 4 大阪大学大学院医学系研究科附属子どものこころの分子統御機構研究センター長 (平20.3まで)

平田 收 正 (ひらた かずまさ)

大学院薬学研究科附属実践薬学教育研究センター長



【略歴】

- 昭57. 3 京都薬科大学薬学部卒業
- 59. 3 大阪大学大学院薬学研究科博士前期課程修了
- 62. 3 大阪大学大学院薬学研究科博士後期課程修了
- 62. 3 薬学博士 (大阪大学)
- 62. 4 大阪大学文部技官薬学部
- 62. 5 大阪大学助手薬学部
- 平 5. 6 大阪大学助教授薬学部
- 10. 4 大阪大学助教授大学院薬学研究科
- 18. 4 大阪大学教授大学院薬学研究科附属実践薬学教育研究センター
- 18. 4 大阪大学大学院薬学研究科附属実践薬学教育研究センター長 (平20.3まで)

池田 雅 夫 (いけだ まさお)

大学院工学研究科附属フロンティア研究センター長



【略歴】

- 昭44. 3 大阪大学工学部通信工学科卒業
- 46. 3 大阪大学大学院工学研究科通信工学専攻修士課程修了
- 48. 3 大阪大学大学院工学研究科通信工学専攻博士課程中途退学
- 48. 4 神戸大学助手工学部
- 50. 6 工学博士 (大阪大学)
- 50. 6 神戸大学講師工学部
- 51. 4 神戸大学助教授工学部
- 平 2. 4 神戸大学教授工学部
- 7. 4 大阪大学教授工学部
- 10. 4 大阪大学教授大学院工学研究科
- 14. 4 大阪大学評議員 (平16.3まで)
- 17. 4 大阪大学大学院工学研究科副研究科長
- 18. 4 大阪大学大学院工学研究科附属フロンティア研究センター長 (平20.3まで)

新施設長紹介

中 村 春 木 (なかむら はるき)

蛋白質研究所附属プロテオミクス総合研究センター長



【略歴】

- 昭50. 3 東京大学理学部物理学科卒業
- 52. 3 東京大学大学院理学系研究科物理学専攻修士課程修了
- 55. 3 東京大学大学院理学系研究科物理学専攻博士課程修了
- 55. 3 理学博士の学位授与(東京大学)
- 55. 4 東京大学助手工学部
- 62. 8 株式会社蛋白工学研究所第2研究部主任研究員
- 63. 6 株式会社蛋白工学研究所第2研究部長
- 平 7.10 株式会社生物分子工学研究所情報解析研究部門長
- 11. 4 大阪大学教授たんぱく質研究所附属生体分子解析研究センター
- 14. 4 大阪大学教授たんぱく質研究所附属プロテオミクス総合研究センター
- 18. 4 大阪大学蛋白質研究所附属プロテオミクス総合研究センター長(平20.3まで)

新教授紹介

友 枝 敏 雄 (ともえだ としお)

大学院人間科学研究科



【略歴】

- 昭50. 3 東京大学文学部第4類(心理学・社会学)卒業
- 52. 3 東京大学大学院社会学研究科社会学専門課程修士課程修了
- 54. 5 東京大学助手文学部
- 59. 4 中央大学文学部講師
- 62. 4 九州大学助教授文学部
- 平 8. 9 九州大学教授文学部
- 10. 4 九州大学教授大学院人間環境学研究科
- 12. 4 九州大学教授大学院人間環境学研究院
- 18. 4 大阪大学教授大学院人間科学研究科

所 属：大学院人間科学研究科人間科学専攻社会環境学講座
専門分野：理論社会学、社会変動分析

窪 田 高 弘 (くぼた たかひろ)

大学院理学研究科



【略歴】

- 昭50. 3 東京大学理学部物理学科卒業
- 52. 3 東京大学大学院理学系研究科物理学専門課程修士修了
- 55. 3 東京大学大学院理学系研究科物理学専門課程博士修了
- 55. 4 日本学術振興会奨励研究員
- 56. 9 英国ケンブリッジ大学キャベンディッシュ研究所研究助手
- 58. 2 大阪大学助手理学部
- 平 3. 5 大阪大学助教授教養部
- 6. 4 大阪大学助教授理学部
- 8. 4 大阪大学助教授大学院理学研究科
- 18. 5 大阪大学教授大学院理学研究科

所 属：大学院理学研究科物理学専攻基礎物理学講座
専門分野：素粒子論

新教授紹介

川 端 重 忠 (かわばた しげただ)

大学院歯学研究科



【略歴】

- 平元. 3 大阪大学歯学部卒業
 5. 3 大阪大学大学院歯学研究科博士課程修了
 5. 4 大阪大学歯学部研究生
 5.10 米国アラバマ州立大学博士研究員
 7. 3 大阪大学助手歯学部
 9.12 大阪大学講師歯学部
 10. 9 大阪大学助教授歯学部
 12. 4 大阪大学助教授大学院歯学研究科
 13.12 科学技術振興事業団研究員
 18. 5 大阪大学教授大学院歯学研究科

所 属：大学院歯学研究科口腔分子感染制御学
 講座

専門分野：分子細菌学、感染制御学

荘 村 泰 治 (そうむら たいじ)

大学院歯学研究科



【略歴】

- 昭44. 3 兵庫県立姫路工業大学工学部機械工学科卒業
 47. 3 大阪大学大学院基礎工学研究科修士課程物理系専攻修了
 50. 6 大阪大学大学院基礎工学研究科博士課程物理系単位取得
 退学
 50. 6 大阪大学教務職員基礎工学部
 57. 7 大阪大学助手歯学部
 平 6. 2 大阪大学講師歯学部
 8. 6 ミュンヘン大学歯学部客員研究員
 11. 6 大阪大学助教授歯学部
 12. 4 大阪大学助教授大学院歯学研究科
 18. 6 大阪大学教授大学院歯学研究科

所 属：大学院歯学研究科顎口腔機能再建学
 講座

専門分野：コンピュータの歯科応用、生体材料

上 島 悦 子 (うえじま えつこ)

大学院薬学研究科



【略歴】

- 昭52. 3 大阪大学薬学部薬学科卒業
 52. 4 大阪大学医学部附属病院薬剤部研修生
 53. 6 大阪大学医学部附属病院薬剤部職員
 平 2. 4 大阪大学医学部附属病院薬剤部入院調剤室長
 3. 7 大阪大学医学部附属病院薬剤部麻薬室長
 4. 4 大阪大学医学部附属病院薬剤部薬品情報室長
 5. 9 大阪大学医学部附属病院薬剤部病棟薬剤室長
 15. 9 博士(薬学)(大阪大学)
 16. 7 大阪大学医学部附属病院薬剤部副薬剤部長
 18. 4 大阪大学教授大学院薬学研究科附属実践薬学教育研究
 センター

所 属：大学院薬学研究科附属実践薬学教育研
 究センター病院薬学教育研究部

専門分野：臨床薬学、医薬品データベース研究

新教授紹介

平 田 收 正 (ひらた かずまさ)

大学院薬学研究科



【略歴】

- 昭57. 3 京都薬科大学薬学部卒業
- 59. 3 大阪大学大学院薬学研究科博士前期課程修了
- 62. 3 大阪大学大学院薬学研究科博士後期課程修了
- 62. 3 薬学博士(大阪大学)
- 62. 4 大阪大学文部技官薬学部
- 62. 5 大阪大学助手薬学部
- 平 5. 6 大阪大学助教授薬学部
- 10. 4 大阪大学助教授大学院薬学研究科
- 18. 4 大阪大学教授大学院薬学研究科附属実践薬学教育研究センター
- 18. 4 大阪大学大学院薬学研究科附属実践薬学教育研究センター長(平20.3まで)

所 属：大学院薬学研究科附属実践薬学教育研究センター実践教育部
専門分野：環境薬学、応用環境生物学

北 岡 康 夫 (きたおか やすお)

大学院工学研究科



【略歴】

- 平元. 3 大阪大学工学部電気工学科卒業
- 3. 3 大阪大学大学院工学研究科電気工学専攻博士前期課程修了
- 3. 4 松下電器産業株式会社入社 光デバイス研究センター
- 5. 4 光ディスク開発センター
- 7. 4 光ディスク開発センター技師
- 11. 9 博士(工学)(大阪大学)
- 13. 4 光ディスク開発センター主任技師
- 15. 4 デバイス環境部門企画室主任技師
- 15. 9 先行デバイス開発センター主任技師
- 17. 4 先行デバイス開発センター主幹技師
- 18. 4 大阪大学教授大学院工学研究科

所 属：大学院工学研究科附属フロンティア研究センター
専門分野：電気材料工学、レーザ - 工学

高 橋 亮 一 (たかはし りょういち)

大学院工学研究科



【略歴】

- 昭45. 3 大阪大学基礎工学部制御工学科卒業
- 47. 3 大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻修士課程修了
- 47. 4 住友金属工業(株)中央技術研究所
- 平元. 5 博士(工学)(大阪大学)
- 9.10 住友金属工業(株)総合技術研究所製板プロセス研究部長
- 11. 6 住友金属工業(株)総合技術研究所副所長
- 14. 1 大阪大学研究員(科学技術振興調整費)(大学院工学研究科)
- 14. 4 大阪大学科学技術振興特任教員(大学院工学研究科)
- 16. 4 大阪大学大学院工学研究科特任教授
- 17. 4 大阪大学特任教授(常勤)大学院工学研究科
- 18. 4 大阪大学教授大学院工学研究科

所 属：大学院工学研究科附属フロンティア研究センター
専門分野：制御工学

新教授紹介

高 谷 裕 浩 (たかや やすひろ)

大学院工学研究科



【略歴】

- 昭62. 3 北海道大学工学部精密工学科卒業
- 平元. 3 北海道大学大学院工学研究科精密工学専攻博士前期課程修了
- 4. 3 北海道大学大学院工学研究科精密工学専攻博士後期課程修了
- 4. 3 博士(工学)(北海道大学)
- 4. 4 大阪大学助手工学部
- 7. 7 大阪大学講師工学部
- 9. 7 大阪大学助教授工学部
- 10. 4 大阪大学助教授大学院工学研究科
- 18. 4 大阪大学教授大学院工学研究科

所 属：大学院工学研究科機械工学専攻マイクロ機械科学講座
専門分野：加工計測学、光工学

廣 瀬 明 夫 (ひろせ あきお)

大学院工学研究科



【略歴】

- 昭54. 3 大阪大学工学部溶接工学科卒業
- 56. 3 大阪大学大学院工学研究科溶接工学専攻博士前期課程修了
- 56. 4 大阪大学助手工学部
- 61. 1 工学博士(大阪大学)
- 平 2. 6 マサチューセッツ工科大学客員研究員(文部省在外研究員)(平3.3まで)
- 6. 4 大阪大学助教授工学部
- 10. 4 大阪大学助教授大学院工学研究科
- 18. 4 大阪大学教授大学院工学研究科

所 属：大学院工学研究科マテリアル生産科学専攻生産プロセス講座
専門分野：機能化プロセス工学、接合工学

和 田 成 生 (わだ しげお)

大学院基礎工学研究科



【略歴】

- 昭61. 3 大阪大学基礎工学部機械工学科卒業
- 63. 3 大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻博士前期課程修了
- 平 3. 3 大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻博士後期課程修了
- 3. 3 工学博士(大阪大学)
- 3. 4 龍谷大学助手理工学部
- 6. 9 北海道大学講師電子科学研究所
- 13.11 北海道大学助教授電子科学研究所
- 14.10 東北大学助教授大学院工学研究科
- 14.10 トロント大学訪問研究員(平15.3まで)
- 18. 4 大阪大学教授大学院基礎工学研究科

所 属：大学院基礎工学研究科機能創成専攻生体工学領域生体機械科学講座
専門分野：計算バイオメカニクス、生理流体力学、生体物質輸送、医療工学

新教授紹介

荒瀬 尚 (あらせ ひさし)

微生物病研究所



【略歴】

- 平 2. 3 北海道大学医学部卒業
- 6. 3 北海道大学大学院医学研究科博士課程修了
- 6. 4 千葉大学助手医学部
- 10. 4 千葉大学助手大学院医学研究科
- 14. 8 千葉大学助教授大学院医学研究科
- 16. 2 大阪大学助教授微生物病研究所
- 18. 6 大阪大学教授微生物病研究所

所 属：微生物病研究所生体防御研究部門免疫
化学分野
専門分野：免疫学、病原体の認識機構

熊ノ郷 淳 (くまのこう あつし)

微生物病研究所



【略歴】

- 平 3. 3 大阪大学医学部卒業
- 3. 7 大阪大学医学部附属病院医員（研修医）
- 4. 7 大阪通信病院（現NTT西日本病院）常勤嘱託臨床研修
医（内科）
- 9. 3 大阪大学大学院医学研究科博士課程修了
- 9. 8 大阪大学助手微生物病研究所
- 15.12 大阪大学助教授微生物病研究所
- 18. 6 大阪大学教授微生物病研究所

所 属：微生物病研究所感染機構研究部門感染
病態分野
専門分野：免疫学

芝田 育也 (しばた いくや)

環境安全研究管理センター



【略歴】

- 昭57. 3 大阪大学工学部石油化学学科卒業
- 59. 3 大阪大学大学院工学研究科石油化学専攻博士前期課程
修了
- 62. 3 大阪大学大学院工学研究科応用精密化学専攻博士後期
課程修了
- 62. 4 大阪大学助手工学部
- 平 7. 4 大阪大学助教授工学部
- 10. 4 大阪大学助教授大学院工学研究科
- 15. 4 大阪大学助教授大学院工学研究科附属原子分子イオン
制御理工学センター
- 18. 4 大阪大学教授環境安全研究管理センター

所 属：環境安全研究管理センター
専門分野：環境化学、有機合成化学、
有機金属化学

新教授紹介

川崎 和 男 (かわさき かずお)

コミュニケーションデザイン・センター



所 属：コミュニケーションデザイン・センター
アート&テクノロジー・コミュニケーションデザイン部門
専門分野：デザイン文理学

【略歴】

- 昭47. 3 金沢美術工業大学美術工芸学部産業美術学科卒業
- 47. 4 株式会社東芝意匠部グループ(昭54.4まで)
- 54. 8 川崎和男デザイン室代表ディレクター(平8.3まで)
- 59. 9 株式会社オーザック取締役(平8.3まで)
- 60.10 株式会社イーエクスデザイン代表取締役(平6.10まで)
- 60.12 株式会社ディアイティ取締役(昭63.10まで)
- 平成. 9 株式会社ナレッジウェア取締役副社長(平7.12まで)
- 8. 4 名古屋市立大学芸術工学部生活環境デザイン学科教授
- 12. 4 名古屋市立大学大学院芸術工学研究科教授
- 18. 4 大阪大学教授大学院工学研究科附属フロンティア研究センター
- 18. 4 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授
へ学内派遣

平 田 オリザ (ひらた おりざ)

コミュニケーションデザイン・センター



所 属：コミュニケーションデザイン・センター
臨床&フィールド・コミュニケーションデザイン部門
専門分野：演劇

【略歴】

- 昭61. 6 国際基督教大学教養学部人文科学科卒業
- 平 7. 3 第39回岸田國土戯曲賞受賞
- 11. 4 桜美林大学文学部総合文化学科助教授
- 14. 2 朝日舞台芸術賞グランプリ受賞
- 17. 4 桜美林大学総合文化学群教授
- 18. 4 大阪大学教授コミュニケーションデザイン・センター

岡 村 弘 之 (おかむら ひろゆき)

核物理研究センター



所 属：核物理研究センター加速器研究部門
専門分野：原子核物理学(実験)

【略歴】

- 昭59. 3 京都大学理学部卒業
- 61. 3 京都大学大学院理学研究科修士課程物理学第二専攻修了
- 平成. 7 京都大学大学院理学研究科博士後期課程物理学第二専攻修了
- 元. 7 理学博士(京都大学)
- 2. 3 東京大学助手素粒子物理国際研究センター
- 10. 4 埼玉大学助教授理理学部
- 15. 4 東北大学教授サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター
- 18. 4 大阪大学教授核物理研究センター

東風西風

思い出すこと

名誉教授 片 山 俊



私は昭和40年（1965年）秋から平成2年（1990年）春まで、阪大基礎工学部化学工学科に在籍し、多くの方々にお世話になりながら研究と教育に従事してきた。それまで、他大学にも勤務してきたが、私にとっては阪大における四半世紀が最も充実した年月であり、それだけに思い出も多い。心に浮かぶことを書いてみようと思うが、どうしても豊中キャンパスや基礎工学部のことになるのをお許し願いたい。

■ 40年前の豊中キャンパス

基礎工学部の創立は1961年だが、全学科が同時にできたわけではなく、バラバラに設置されてきたため、学科ごとにその歴史が異なる。化学工学科は1963年に設置され、私が阪大に赴任してきた1965年は第1期生が専門課程に上ってきた年であった。

今から40年前の豊中キャンパスは現在のように建物は多くなく、石橋門の南に位置する中山池はゆったりと広がった。キャンパスの東部にある乳母谷池も現在よりはるかに広々としており、その南側にあった二尾池と呼ばれた細長い池と合わせると、現在の約3倍の水面の広がりがあったと思う。キャンパスの北東に位置する現在の運動場も当時は近くに建物がなく、今よりかなり広い面積があった。

キャンパスを取り巻く周辺の道路は、現在のようにアスファルトで整備されてなく、田舎道のようなものであった。全体としてキャンパスはゆったりしていて明るく、私はそののどかな雰囲気が好きであった。

着任以来、1年余り阪急電車に乗って石橋駅経由で通勤していたが、時折、蛍池駅で下車して、駅近くでは家々の路地を歩き、キャンパス近くでは所々に竹藪のあるひっそりとした田舎路を選んで通った。1968年頃だったと記憶しているが、教授会の席上で、そのうちに、豊中キャンパスの南側に新しく東西に走る中国縦貫道を中心にして、両側に中央環状道路と歩道をつけた太い道ができ、正門前では約100m幅にもなると聞いて驚かされた。同時に、これまでののんびりとした風景が無くなってしまうのか、という淋しい思いを味わった。しかし、当時は現在の正門前のような物凄い交通量は想像もできなかった。

■ 大学紛争

1968年から69年にかけて国中を吹き荒れた大学紛争は、思い浮かべるのも嫌であるという方も多いと想像する。しかし、私にとっては、昔を振り返るとき避けて通れない出来事であった。その強烈さは東京大学が1969年春の大学入試を見送ったことからしてもわかる。阪大においては基礎工学部の被害は特に甚大であった。紛争学生によって学部建物は約4ヶ月にわたって占拠され、教職員はもとより、一般学生も立入り禁止の状態になり、学部の機能は麻痺した。教授会も学外に会場を借りて開催せねばならぬ始末

で、紛争対策のための会合も数多く持たれた。私はそのとき学科主任を務めており、学科会議のための場所探しに苦労したことを思い出す。卒業研究や大学院生の研究もままならず、学生達も教官も頭を悩ませたものである。当時在籍していた一般学生や院生には気の毒なことであった。

大学紛争は国中に流行した疫病のようなものであった。紛争学生と教職員・一般学生との対立のみならず、紛争学生も数派に分かれて互いに争った。結果的には何の実りも見当たらない空しいものであったが、研究と教育に及ぼしたマイナスの影響は甚大であった。唯一良かったと思えることは、大学紛争のために他部局の先生方や事務官と知り合いになれたことで、いまお会いしても私は戦友的な懐かしさを覚える。

■ 待兼山庭園

阪急石橋駅から徒歩約10分足らず、最後の坂道を上ったところで、キャンパス入口の石橋門に着く。現在はそこから待兼山庭園が広がっているが、以前はその場所に何面かのテニスコートがあった。多くの学生は石橋門経由で通学しているが、長い坂を上って大学に辿り着いたとき、最初に目に入るのがテニスコートで運動している人々というのでは、勉学意欲を削ぐ(?)ということ、熊谷信昭総長の時代(1988年)に現在のような庭園に変えられた。非常によかったと私は思っている。

大学が学問の府であるからには、キャンパスに入ったときに身の引き締まるような清楚で品格のある場であって欲しい。ごく最近、石橋門への長い坂道が気持のよい石畳に整備されたのは嬉しい。これから阪大に色々の良い効果を与えてくれるのではないかと期待している。



昭和40年(1965年)頃の基礎工学部とその周辺

かたやま・たかし

プロフィール

基礎工学部名誉教授 平成2年退官 専門：化学工学

植村 雅彦名誉教授(文学部)逝去



本学名誉教授植村雅彦先生は、病氣療養中のところ平成18年2月25日(土)肺炎のため逝去されました。享年87歳。

先生は、京都府にお生まれになり、昭和17年9月京都帝国大学文学部史学科をご卒業の後、京都府立京都第一中学校教諭心得、同教諭、京都府立洛北高等学校教諭、同朱雀高等学校教諭、岡山大学法文学部助教授を経て、昭和41年5月大阪大学教養部教授に着任されました。昭和54年4月には同文学部教授へ配置換えになられ、西洋近世史講座をご担当、昭和57年4月に停年退官され、大阪大学名誉教授の称号を授与された後、引き続き、愛知学院大学教

授にご就任、平成3年3月に同教授を退職されました。

先生は、16・17世紀のイギリス史の研究をご専門にされ、イギリス近代史の中核をなす憲政の発展過程の解明、16世紀を中心とするイギリス・ルネサンスの研究、エリザベス一世とその時代に関する研究、また16・17世紀イギリス国制史の理解に欠くことのできない宗教改革の研究に取り組まれました。特に、救貧法に関する研究は、我が国におけるこの分野の開拓に先鞭をつけたものと評価されています。こうした研究を基に、学生の教育、後進の指導にも努められました。

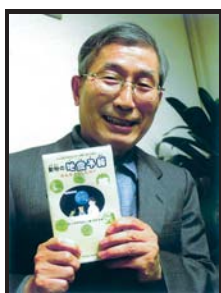
大阪大学在職中には、4期6年余りの期間評議員をお務めになり、また学内の各種委員会委員を歴任され、管理運営面で大阪大学の発展に寄与されました。学外では、史学研究会理事や我が国の西洋史学界における唯一の総合専門誌である『西洋史学』の編集・発行責任者をお務めになるなど、西洋史研究の発展に貢献されました。

さらに、平成6年秋には、先生がこれまで行ってこられた教育研究活動に対する功労が認められ、勲三等旭日中綬章を受章されています。

以上のように、西洋近世史関係の各方面に多大な貢献を果たされました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

池谷 元同名誉教授(理学研究科)逝去



本学名誉教授池谷元同先生は、平成18年3月14日(火)心不全のため急逝されました。享年65歳。

先生は大阪府に生まれ、昭和38年3月大阪大学工学部電子工学科を御卒業後、修士、博士課程を経て、昭和42年名古屋大学工学部助手、同講師、助教授、昭和48年に山口大学工業短期大学部教授、さらに昭和62年5月大阪大学理学部教授に着任されました。その後、平成3年度の理学部宇宙地球科学科の創設に尽力され、平成8年4月に大阪大学大学院理学研究科教授となり、平成16年3月31日停年退官され、大阪大学名誉教授の称号を授与されました。その後も大阪大学産業科学研究所特任教授、および同招へい教員と現役研究生活をお続けの最中の急逝で、まこ

とに残念な他界となりました。

先生は、電子スピン共鳴(ESR)年代測定法、およびESR線量測定法の開発者であり、これを用いて放射線物理学および地球環境に関わる、年代学、古人類学、核・事故被曝線量計測学など学際的な研究を中心に進められました。特にESR年代測定法は、従来の放射性炭素年代測定の限界である数万年を超える第四紀の年代測定法として、地質学や人類学における重要な発見を導き、世界に広く知られ定着した測定法となり、この成果に対して朝日学術奨励金や大阪科学賞を受賞されています。また阪神大震災以降においては「地震前兆現象とその伝承」についての科学的解明をめざし、実験、理論の両面から電磁気地震学を提唱し、また地震防災への可能性を考慮してその観察、観測法を開発公表するとともに、教卓実験を広く開催し、理科教育として訴えるなど社会的活動も広範に行われました。結果として先生は新分野を創成され、300編を超える共著論文、解説と当該分野で初めての著作で国際的にも高い評価を得て、総引用度数は2000に達しています。

大学の運営面においても多大な貢献があり、宇宙地球科学棟の天然石玄関ロビーを有する教育研究棟の建築に尽力され、長年にわたって学生の教育と研究指導に携わり20名を超える博士課程修了者を育くむとともに、学内外に特徴ある研究者の育成に努められました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

写真提供:神戸新聞社

高木 修二名誉教授(基礎工学部)逝去



本学名誉教授高木修二先生は、平成 18 年 3 月 22 日(水)胃癌のため逝去されました。享年 82 歳。

先生は、大正 12 年 7 月 18 日京都府に生まれ、昭和 20 年 9 月京都帝国大学理学部物理学科を卒業し、昭和 22 年 9 月京都帝国大学理学部副手に、昭和 26 年 4 月同助教授に、昭和 30 年 3 月大阪大学理学部助教授に配置換となり、昭和 34 年 12 月京都大学基礎物理学研究所教授に昇任され、昭和 40 年 4 月大阪大学基礎工学部教授に配置換となり共通講座(応用力学講座)を担当、同学部の充実・発展に貢献されました。昭和 62 年 3 月定年により退職し、同年 4 月大阪大学名誉教授の称号を授与されました。以後、平成 2 年 4 月龍谷大学教授に就任し、同大学理工学部数理情報学科の充実・発展に尽力されました。

この間、長年にわたって教育・研究並びに後進の指導育成に専心し、専門分野である基礎物理学の発展に大きく寄与するとともに、学界および産業界に多数の有為の人材を送り出されました。

学内においては、大阪大学大型計算機センターの設置に尽力し昭和 44 年からセンター長としてその建設に携わり、10 年間にわたり同センターの運営と発展に尽力されました。また、核物理研究センターの設立準備委員長としてその設

置に尽力し、大学の研究施設の充実発展に貢献されるとともに、昭和 44 年から評議員として大学行政の中枢に参画し大学の管理運営に尽力されるとともに、大学院審査会委員、原子力利用委員会委員、入学試験制度委員会委員等多くの委員を歴任し大学の運営にも大きく貢献されました。

一方学外にあっては、日本学術会議会員及び同第 4 部幹事、同学術体制委員会委員長、同原子核研究連絡委員会委員長等の要職を歴任し、学術審議会専門委員(科学研究費分科会)としてわが国の基礎物理学の分野において常に指導的役割を果たされました。また、京都大学基礎物理学研究所教授に併任され、同研究所運営委員会委員としてその運営に尽力され、さらに多年にわたり東京大学原子核研究所運営委員としてその運営にもあたられました。

研究面では、素粒子物理学から宇宙線・原子核をも含めた広範囲な分野に研究対象を広げられました。宇宙線分野での粒子多重発生の研究では、先駆的な「高木モデル」又は「2 中心モデル」と呼ばれる研究成果を挙げられ、その後の粒子多重発生現象の解析および理論的研究に大きな影響を与えました。原子核理論の分野では、原子核の構成要素である核子間の相互作用(核力)を基礎として原子核・核物質の研究に携わり、核力のテンソル力の重要性、核力の芯に関する研究、原子核の構成核子の集団運動の研究、高エネルギー重イオン衝突における衝撃波的現象の研究、また、三核子間力の原子核構造への効果の研究など、原子核の構造の理解とその分野の発展に大きく貢献されました。

このような大学内外での数々の功績により平成 12 年 11 月には勲三等旭日中授章を受章されました。

以上のように、先生は大阪大学大型計算機センターや核物理研究センターの設置に尽力し発展に寄与したのみならず、研究者としては基礎物理学の分野で卓越した業績を生み出し、教育者としても多数の優秀な人材を育成し各界に送り出した功績は誠に顕著でありました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

湯川秀樹博士のノーベル賞レプリカを制作

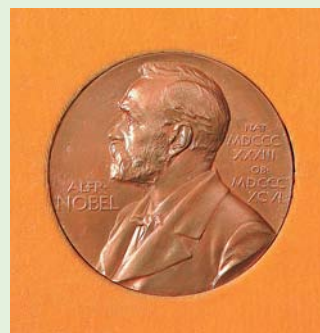
国立科学博物館で開催されていました展示会「素粒子を拓く - 湯川秀樹・朝永振一郎生誕百年記念 - 」は、期間中4万1000人余りの入館者（国立科学博物館調べ）があり、好評のうちに閉幕しました。

このあと、筑波大学、京都大学、大阪大学で展示会が開催されることになっており、本学では、来年4月頃に総合学術博物館で開催する予定です。

また、湯川秀樹博士の生誕百年を記念して、湯川記念室運営委員会では、ノーベル賞の盾とメダルのレプリカを制作しました。制作にあたっては、盾の黄ばみや色あせなど、オリジナルの姿が忠実に模写されています。

なお、総合学術博物館では、来年8月以降に常設展示コーナーを設けてこのレプリカの一般公開を予定しています。

（湯川記念室運営委員会）



大学院工学研究科・工学部が受験生向けのブログを開設

大学院工学研究科・工学部では、受験生向けの広報活動の一環として、4月からブログ「阪大工学部の散歩道」（<http://osakaeng.sub.jp/>）を開設しました。

ブログの内容については、教職員が、日々の活動やイベントの紹介、キャンパスの案内、自身の研究活動の紹介などを、ほぼ毎日投稿・掲載し、受験生に分かりやすく工学研究科・工学部の魅力を伝えていきます。また、ブログには、投稿記事に対してコメントを書き込める機能を持たせており、記事の内容に関する質問や、感想などを受け付けています。

現在のところ、ブログへの訪問者は、一日当たり約100名程度ですが、徐々に訪問者数は増加しており、大阪大学工学研究科・工学部ではホームページでの広報とあわせた相乗効果を期待しています。

（大学院工学研究科・工学部）



七大戦、阪大主管で開催

第45回全国七大学総合体育大会（七大戦）が今夏、大阪大学主管で開催されます。開会式は7月15日（土）16：00からコンベンションセンター MO ホールにて執り行われ、競技日程・会場は下記の通りです。詳細は、七大戦公式 Web サイト（<http://www.7-u.jp/>）等にてご確認ください。

前回主管の際、成し遂げられなかった「総合優勝」を目指して、奮闘する選手にあたたいご声援をよろしくお願いいたします。

第45回全国七大学総合体育大会（夏季） 競技日程・会場一覧表

番 号	競 技 名	期 間	会 場
	開会式 / レセプション	7/15	大阪大学コンベンションセンター / レストラン「宙 / sora」
1	空手道	7/15 ~ 7/17	豊中第1体育館（豊中キャンパス）
2	弓道・男	8/22 ~ 8/24	吹田和弓場（吹田キャンパス）
3	弓道・女	8/25 ~ 8/27	
4・5	剣道（男・女）	7/15 ~ 7/17	吹田体育館（吹田キャンパス）
6・7	硬式テニス（男・女）	7/14 ~ 7/17	舞州シーサイドテニスガーデン（舞州スポーツアイランド）
8	硬式野球	8/15 ~ 8/17	万博記念野球場（吹田市）
9	ゴルフ	9/5 ~ 9/7	ライオンズカントリークラブ（兵庫県美嚢郡）
10	自動車	8/19 ~ 8/22	19 ~ 20日【ラリー】京丹後 21日【ジムカーナ】名阪スポーツランドCコース（奈良県山辺郡）
11	柔道	6/17 ~ 6/18	吹田体育館（吹田キャンパス）
12	少林寺拳法	7/8 ~ 7/9	豊中第1体育館（豊中キャンパス） ただし、8日は前日練習
13	準硬式野球	8/12 ~ 8/14	12 ~ 13日 豊中ローズ球場（豊中市） 14日 住之江球場（大阪市） （15日、大会予備日、豊中ローズ球場）
14・15	水泳（男・女）	7/15 ~ 7/16	大阪プール（大阪市）
16	体操	9/2 ~ 9/3	舞州アリ・ナ（大阪市）
17・18	卓球（男・女）	9/12 ~ 9/16	豊中第1体育館（豊中キャンパス）
19・20	ソフトテニス（男・女）	8/26 ~ 8/29	服部緑地公園（豊中市）
21・22	バスケットボール（男・女）	7/3 ~ 7/8	吹田体育館（吹田キャンパス）
23・24	バドミントン（男・女）	8/8 ~ 8/14	東淀川体育館（大阪市） ただし8日は練習日
25・26	バレーボール（男・女）	8/8 ~ 8/12	大阪府立体育会館（大阪市）
27	ハンドボール	8/20 ~ 8/24	吹田体育館（吹田キャンパス）
28	フェンシング	9/1 ~ 9/2	吹田体育館（吹田キャンパス） ただし日程の変動あり。
29・30	ラクロス（男・女）	8/7 ~ 8/10	舞州運動広場（舞州スポーツアイランド）
31・32	陸上競技（男・女）	7/29 ~ 7/30	皇子山総合運動公園陸上競技場（滋賀県大津市）
33	アーチェリー	9/8 ~ 9/10	吹田地区陸上競技場（吹田キャンパス） ただし8日は準備日
34	ヨット	7/8 ~ 7/9	新西宮ヨットハーバー（西宮市）
	応援団	8/6	吹田体育館（吹田キャンパス） 予定



学内各所に設置された七大戦の「のぼり」



七大戦ギャラリー（学生交流棟）



ギャラリー展示中の優勝トロフィー
（第45回全国七大学総合体育大会事務局）

【訂正とお詫び】

阪大 NOW №89（2006.4月号）「ナウススペシャル」（全国七大学総合体育大会）の文中、競技種目名等の表記に誤りがありましたので、下記の通り訂正しお詫びいたします。

19．軟式テニス（女）→ ソフトテニス（男） 20．軟式テニス（女）→ ソフトテニス（女） 33．洋弓 → アーチェリー

全国安全週間にあわせた実験機器展示会・安全講演講習会

社団法人大阪大学工業会（工学部同窓会） 工学研究科及び安全衛生管理部では、全国安全週間（7 / 1 ~ 7 / 7）にあわせて、実験機器展示会・安全講演講習会を実施します。

展示会では、「実験機器の正しい選び方・正しい使い方」をメインテーマとし、大学研究者が担うべき安全な研究の推進、実験時における指導者としての安全な知識、技術の向上を図りたいと考えております。また、参加する大学教員及び学生から、今後の実験機器製作へ向けての改善を提言、要望を出してもらいたいと考えております。

安全衛生管理部では、非化学系のための薬品取り扱い講習会を行いますので、多数の方に参加いただきますようお願いいたします。

開催日 平成 18 年 7 月 4 日(火)~ 5 日(水)
場所 コンベンションセンター（吹田キャンパス）
主催 社団法人大阪大学工業会
共催 工学研究科、安全衛生管理部
参加方法 下記 URL からお申し込みください。

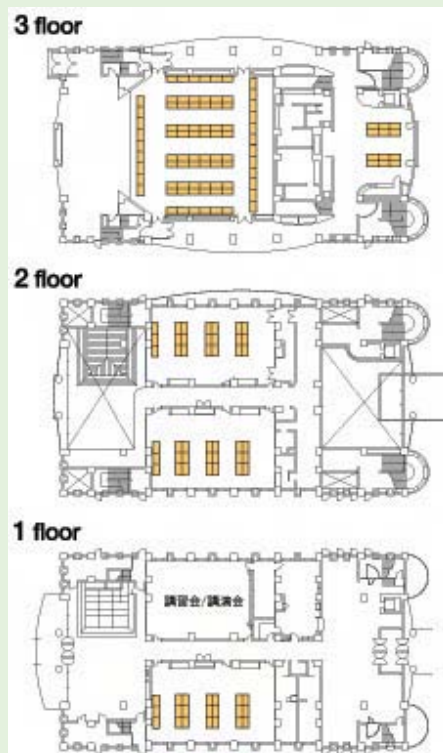
<http://55099zzwd.coop.osaka-u.ac.jp/LabwareExpo/questionnaire.php>

アンケート 今後の安全衛生活動に役立てますので、ご協力願います。

<http://55099zzwd.coop.osaka-u.ac.jp/LabwareExpo/entry.php>



7 月 4 日	10:00	開場
	10:30 ~ 10:45	ご挨拶
	10:45 ~ 11:45	講習会（安全衛生管理部） 非化学系のための薬品取り扱い講習
	12:00 ~ 13:00	ランチョンセミナー
	13:10 ~ 14:00	講演会 1 ドラフトの機構と排水処理
	14:15 ~ 15:15	講習会（安全衛生管理部） 非化学系のための薬品取り扱い講習
	17:00	終了
7 月 5 日	10:00	開場
	10:45 ~ 11:45	講習会（安全衛生管理部） 非化学系のための薬品取り扱い講習
	12:00 ~ 13:00	ランチョンセミナー
	13:10 ~ 14:00	講演会 2（保健センター） 実験系の研究における注意事項について
	15:00	終了



（工学研究科・安全衛生管理部）

人権問題に関する講演会

人権問題に関する啓発行事の一環として、講演会を以下のとおり開催します。
今回は、アカデミック・ハラスメント問題をテーマとして取り上げます。
教職員・学生の積極的な参加をお待ちしています。
近隣地域の方々にも多数ご参加いただきますようご案内いたします。

- 日 時 7月13日(木) 14時～16時
- 会 場 基礎工学部国際棟 シグマホール
- 講 師 養 父 知 美(弁護士)
- 演 題 「アカデミック・ハラスメントをなくすために」
- 問い合わせ先 総務部総務課総務係(内線7014)
TEL:06-6879-7014

(総務部総務課)

天神祭船渡御に、今年も『阪大船』出航

船渡御は、日本三大祭の一つである大阪天神祭のクライマックスを彩り、意匠を競った百隻余りの船が大川を行き交うものです。

大阪大学では、昨年初船出の『阪大船』を装いも新たに、再びその勇姿を大川の川面に浮べることになりました。

役員、職員、学生、同窓生等の阪大ファミリーの皆様方には、多数ご乗船いただき、大阪の夏の風物詩を大いに楽しんでください。美味しい弁当、綺麗な花火が皆様をお待ちしています。(写真は昨年の様子)

- 日 時 平成18年7月25日(火)
午後6時～午後9時頃
(集合時間 午後5時30分)
- 乗船場所 大川飛翔橋
(JR桜ノ宮駅又は地下鉄谷町線都島駅付近)
- 乗船料 お一人 30,000円
飲食込み、振込手数料は別、簡易トイレ有り
家族割引有り(お一人 20,000円)
- 定 員 170名(申込者数により抽選の場合有り)
- 申込方法 「氏名」、「住所」、「連絡先」を下記問合先まで連絡願います。

その他お知りになりたいことがあれば、下記までお問合せ下さい。



問い合わせ先
大阪大学天神祭実行委員会(大阪大学総務部総務課) 〒565-0871 吹田市山田丘1-1
TEL 06-6879-7013 FAX 06-6879-7008 メール KANBARA-S@star.jim.osaka-u.ac.jp
お申込みいただいた方には、別途「乗船料納入方法」等の詳しい案内を差し上げます。

(総務部総務課)

第9回適塾研究会受講生等の募集

適塾記念会では、適塾顕彰事業の一環として緒方洪庵と塾生の足跡をたどり、適塾が果たしてきた歴史的役割を考察することを目的に、会員の方々を対象とした研究会を開講しております。

適塾についての理解を深めるとともに、会員の方々の親睦を深める良い機会になるこの研究会へ多数の方々がご参加くださるようご案内いたします。

1, テーマ 「適塾門下生についての調査と情報」

本適塾研究会は回を重ねるにしたがって、会員の皆様方で適塾門下生について調査、研究されている方が少なくないことが判ってきました。

今回の研究会は、これらの方々に開放して、4回にわたりその調査結果を発表していただく場を提供することを企画しました。

そのことによって適塾の門下生に関する情報を交換し合い、適塾についての関心を会員の間で相互に深めていきたいと思います。緒方洪庵の適塾の精神に立ちかえって、開かれた交流の場になることを願っています。

会員の方であればどなたでもご遠慮なく、内容の精疎にかかわらず奮ってお申し込みください。

2, 日 時	第1回	8月 1日(火)	18:00~20:00	第3回	10月 3日(火)	18:00~20:00
	第2回	9月 5日(火)	18:00~20:00	第4回	11月 7日(火)	17:00~19:00

3, 会 場 大阪大学中之島センター 講義室2 大阪市北区中之島4丁目3番53号

- 【交通アクセス】《地下鉄》・四ツ橋線 肥後橋駅(3番出口)より西へ徒歩約10分
・御堂筋線 淀屋橋駅(4番出口)より西へ徒歩約16分
《市バス》・大阪駅前 53・75系列(船津橋行き等)
玉江橋バス停下車徒歩約1分
《JR》・大阪環状線 福島駅より南へ徒歩約12分
・東西線 新福島駅(2番出口)より南へ徒歩約9分
《私鉄》・阪神電鉄 福島駅より南へ徒歩約9分
・京阪電鉄 淀屋橋駅より西へ徒歩約17分

4, 発表者の募集

コーディネーターとして適塾記念会幹事の芝哲夫氏と米田該典氏があたります。発表のお申し込みは、はがきで以下の要領でお願いいたします。申込〆切日6月30日(金)

1. 発表題目
2. 発表内容 2~3行で簡潔にご説明ください。
3. 発表希望時間 ご希望の時間を書いてください。(10分単位1時間程度まで)
4. 発表希望日 上記4日の内のいずれかの日とその予備日
5. 申込者の住所、氏名、電話番号

申込書送付先: 適塾記念会事務局(下記を参照ください)

発表日の割り振り、発表時間は、お申し込み状況によりコーディネーターが調整させていただきますことを、予めご了承願います。

5, 対 象 発表者、受講生ともに本記念会会員(新規加入の方を含みます。)

6, 定 員 50名(定員になり次第締め切らせていただきます。)

7, 受講料 3,000円(4回連続 テキスト・雑費)

8, 受講申込 受講を希望される方は、はがきに住所、氏名、電話番号をご記入の上、本記念会事務局(下記を参照)までお申し込みください。

受講者にはおって、ご案内と受講カードをお送りいたしますので、指定の銀行口座に受講料をお振り込みください。

お申し込み・お問い合わせ先

〒565-0871 吹田市山田丘1-1 大阪大学事務局内 適塾記念会事務局(TEL: 06 - 6877 - 9852)

適塾ホームページアドレス <http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/tekijuku/index.html>

(総務部総務課)

平成18年度大阪大学大学院言語文化研究科公開講座
「教員のための英語リフレッシュ講座」

日時：平成18年8月6日(日)、8月7日(月)、8月8日(火)
会場：大阪大学中之島センター(大阪市北区中之島4-3-53)

近年、オーラルコミュニケーション能力の育成を目指すカリキュラムの推進に伴い、中学・高校の現場においては、具体的な指導内容・方法・技術などの面でさまざまな工夫が模索されています。小学校における英語導入やセンター試験におけるリスニングにどう対処するかという問題もあります。本講座では、とかく生徒には役に立たないと敬遠されがちな文法、読解などの意義を、最近の理論的な知見、作品の意味・語用・文体論的分析、そして実際の運用における有用性の認識を踏まえて見直し、教員それぞれが得意とする技量を適切に活かし生徒も納得できる魅力的で効果的な教え方を提案します。さらに、(認知心理学や脳イメージングなど)関連研究領域の最近の理論的な知見を踏まえ、コミュニケーション能力の育成につながる授業展開のあり方を(ネットやCALLの活用を含めて)総合的に考察します。そして、発音の動的な変化の仕組みを分かりやすく解説・訓練するとともに、ネイティブスピーカーによる体験授業を通じて英語運用力の実質的向上も目指します。全体討論では、講師陣が受講の先生方の抱えるいろいろな問題、疑問に専門的知見を踏まえて答えるほか、旬なトピックについて論じます。

講師および演題

8月6日(日)

09:15 ~ 09:25	開講式	(大阪大学大学院言語文化研究科長) 金崎 春幸
09:30 ~ 12:10	「英文法研究の英文法指導への応用」	(大阪大学大学院言語文化研究科教授) 岡田 伸夫
13:00 ~ 15:40	「新時代の英語のカリキュラムと現代技術」	(大阪大学大学院言語文化研究科教授) 成田 一
15:50 ~ 17:00	「発音の科学：ダイナミックメカニズムと訓練」	同上

8月7日(月)

09:30 ~ 12:10	「アリスのことは学：「読み」への応用と実践」	(大阪大学大学院言語文化研究科教授) 沖田 知子
13:00 ~ 15:40	「ネット時代における国際英語の統合的実践」	(大阪大学大学院言語文化研究科助教授) 日野 信行
15:50 ~ 17:00	「バイリンガリズムと外国語教育」	(関西学院大学大学院 言語コミュニケーション文化研究科教授) 山本 雅代

8月8日(火)

09:30 ~ 12:10	「オーラルコミュニケーション実践授業(1)」	(大阪大学大学院言語文化研究科教授) ジェリー・ヨコタ (同助教授) アンドリュー・村上スミス
13:00 ~ 15:00	「オーラルコミュニケーション実践授業(2)」	同上
15:10 ~ 16:30	「全体討論(質疑&トピック討論：小学校英語の問題と連携)」	講師全員
16:45 ~ 17:00	閉講式(本講座修了証(総長名)授与式)	同上
17:15 ~ 18:30	懇親会	同上

<定員> 定員50名(先着順)

本講座は、社会と大学を直接的に結び、大学の基礎研究を学校その他の現場で生かしていただくことを目指しており、中学、高校もしくは小学校などで英語教育に携わっている方はもちろんのこと、広く第二言語習得に関心を持っている一般の方も対象にしています。

<教材作成・連絡費> 6,000 円

<参加申込み受付期間> 7月1日(土)~7月25日(火) 期限厳守]

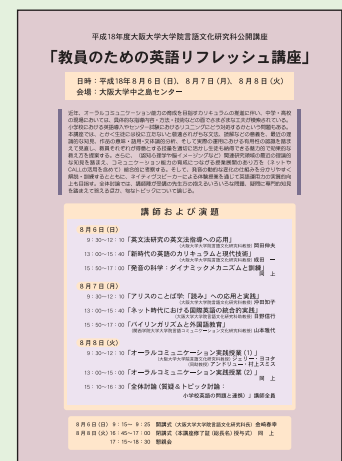
<問い合わせ> 大阪大学言語文化研究科総務係 〒560 - 0043 豊中市待兼山町1 - 8

TEL: 06 - 6850 - 5855、FAX: 06 - 6850 - 5865

E-mail: genbunsoumu @ ns.jim.osaka-u.ac.jp

(言語文化研究科ホームページ) <http://www.lang.osaka-u.ac.jp/hp/>

(大学院言語文化研究科)



大阪大学基礎工学部 第28回公開講座 「未来を拓く先端科学技術」

■ 公開講座の目的

私たちの生活は科学技術によって支えられており、その進歩と密接な関係をもっています。特に日常生活に直接関係する機器や物質の目覚ましい発展と普及、情報技術の急速な進歩とそれにより得られる膨大な情報、生命の謎の解明と先端医療技術、これらに囲まれた私たちの日常生活を安全で豊かなものにするには、それにふさわしい教育と知識を備えることが必要です。このような環境の中、若い人たちから家庭の主婦ならびに学校教育を離れて久しい中高年の方々にいたる広い範囲で、科学的教養を積む機会を望む声が高まっています。大阪大学基礎工学部ではこのような声に応えるべく、あわせて従来とかく軽視されがちであった大学と地域社会との連帯を強めるとともに本学部の情報発信の一環として、1979年以来 27 回にわたり公開講座を開催してきました。

本年度（第 28 回）も、様々な立場から私たちの暮らしや社会と密接な関係を持ち、明るい未来を拓く最先端の科学技術の成果とその意義を紹介する企画を行います。

- 期 間：平成 18 年 8 月 28 日(月)～31 日(木)
- 会 場：大阪大学基礎工学部 国際棟（シグマホール）
- 受講料：無料

8 月 28 日(月)

- 10:00 ～ 開講式
- 10:20 ～ 11:50 分子エレクトロニクスの世界 - ユビキタス社会の実現に向けて -
物性物理工学領域 ナノ量子物理講座 教 授 多田 博一
- 13:15 ～ 14:45 生体膜の“昼の顔”と“夜の顔” - ストレス応答に学ぶ生体膜プロセスケミストリー -
化学工学領域 生物プロセス工学講座 助教授 馬越 大
- 15:00 ～ 16:00 見学会

8 月 29 日(火)

- 10:20 ～ 11:50 組込み計算機システムを設計する
情報科学研究科 集積システム設計学講座 助教授 武内 良典
- 13:00 ～ 14:30 分子流体科学の最前線 - DNA から宇宙まで -
機能デザイン領域 推進工学講座 教 授 川野 聡恭
- 14:45 ～ 15:45 見学会

8 月 30 日(水)

- 10:20 ～ 11:50 脳における学習のしくみについて - 脳研究の最前線 -
生命機能研究科 脳神経工学講座 助教授 小林 康
- 13:00 ～ 14:30 変幻自在なシステムを創る - コンピュータを使った適応雑音除去 -
システム科学領域 システム理論講座 教 授 飯國 洋二
- 14:50 ～ 16:20 リテラシーとしてのデータ科学
数理科学領域 統計数理講座 教 授 狩野 裕

8 月 31 日(木)

- 10:20 ～ 11:50 水にまつわるエトセトラ - レーザー分子分光学からの知見 -
未来物質領域 微小物質ダイナミクス講座 助教授 長澤 裕
- 13:00 ～ 14:30 干渉する電子 - 新しい真空管エレクトロニクス? -
極限量子科学研究センター 量子基礎科学大部門 助教授 若家 富士男
- 14:45 ～ 15:45 見学会

■ 受 付 開 始：平成 18 年 7 月 3 日(月)から

■ 問い合わせ先：大阪大学基礎工学部研究科庶務係

〒560 - 8531 豊中市待兼山町 1 - 3 TEL：06(6850)6131 FAX：06(6850)6151

E-mail：KISOKOU-S@star.jim.osaka-u.ac.jp URL：http://www.es.osaka-u.ac.jp

(大学院基礎工学研究科・基礎工学部)

大阪大学出版会から「大阪大学総合学術博物館叢書」創刊

大阪大学総合学術博物館での、大学所蔵の資料標本類の整理と活用、およびその成果の公開の一環として「大阪大学総合学術博物館叢書」を、大阪大学出版会から創刊しました。

本書は、その第1巻です。

大阪大学総合学術博物館叢書 < 1 >

『扇のなかの中世都市 - 光円寺所蔵「月次風俗図扇面流し屏風」』

著者：泉 万里（総合学術博物館教授）

● 本書の内容

大阪大学大学院文学研究科の日本美術史研究室に蓄積されてきた、美術作品の膨大なスライドコレクションの中から、京都の光円寺に所蔵される「月次風俗図扇面流し屏風」のスライドの一図一図に検討を加えました。

更に、今回初めて24の扇面の一つ一つをA4判の中に大きく配置し、そこに描かれた慣習や年中行事について新たな視点が当てられているため、日本の美術や歴史、風俗などに関係する研究者をはじめ、一般の美術・歴史愛好家の興味や関心にこたえられる1冊となっております。

● 阪大生協、またはお近くの書店にてお求めください。小会のホームページからもご注文を承っております。

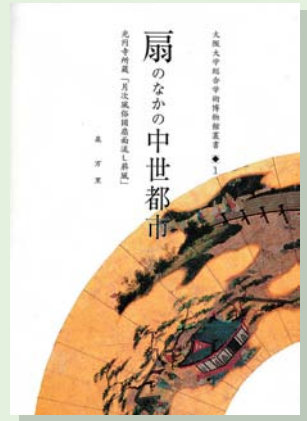
問い合わせ先：大阪大学出版会

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1 大阪大学事務局内

TEL：06-6877-1614（直通）FAX：06-6877-1614（直通）

E-Mail：info@osaka-up.or.jp URL：http://www.osaka-up.or.jp/

（大阪大学出版会）



大学院学位記授与式の挙行

大学院学位記授与式を下記のとおり挙行します。

大学院学位記授与式【10時45分までに入場のうえ着席願います】

日 時：平成18年9月27日（水）11時00分～

（10時20分 入場開始予定）

場 所：大阪大学コンベンションセンター3階MOホール

祝賀会

日 時：授与式終了後

場 所：大阪大学コンベンションセンター1階会議室

お席に限りがありますが、同伴者の方も授与式にご参加いただけます。

満席の場合は、同センター会議室において、授与式を映像でご覧いただくこととなりますので、予めご了解の程よろしくお願いいたします。

遅刻された場合、式場への入場をお断りする場合がありますのでご注意ください。

車での来場はご遠慮下さい。



< 問い合わせ先 > 総務部総務課総務係 TEL：06-6879-7014

（総務部総務課）

コンシェルジェの笑顔が大学の顔に

大阪大学中之島センター 総支配人

岸 千 晴

大学が郊外に移転した後も、社会と大学をつなぐ接点は、やはり街の中にあるべきであるということが言われ続けており、様々な人々の尽力により大阪大学発祥の地“中之島”に帰ってきた中之島センター。

中之島センターは、その地の利を活かし、「平成の適塾・懷徳堂」として地域の発展に寄与し、知的情報の発信と交流のフロンティアを目指し、大阪大学の顔としてこれまで多くの人に利用されています。

今回は、大阪大学と社会との懸け橋、顔として、訪れる方々に中之島センターの良さをアピールし、また気持ちよく利用していただくために日夜奮闘している、大阪大学が運営を委託した富士ゼロックスの社員である総支配人の岸 千晴さんをはじめ、いつも笑顔で対応しているフロアスタッフの方々にお話を伺いました。

■ スタッフのサービス

-- これまでの大学の受付、窓口とは雰囲気が変わった？

皆さんが気持ちよく利用できるように、また一流ホテルのようなサービスを提供することによって、一般的に閉鎖的と言われている窓口を明るく、大阪大学のイメージアップを心がけています。

受付は「コンシェルジェ」と名前を変更し、センター内の案内はもとより、来館の皆様に代わり、タクシーの予約、宅配便、宿泊の手配、少数の発表用レジュメコピーなどの取次ぎをいたします。

また、様々な機器の操作説明者は、「システム・ソムリエ」と名前を変えました。本センターの利用にあたって、お客様がこういった趣旨のイベントでどのようなプレゼンテーションや遠隔講義・TV会議を行いたいかを承り、最新のIT技術にお悩みのお客様や、当センターのAV機器環境に不慣れなお客様に対して、講義コース内容や細かいご要望に応じた最適な視聴覚システム活用のお勧め・ご提案をいたします。総勢13名のスタッフで対応しています。



コンシェルジェの柿木さんと茶岡さん（右から）



中之島地区の夜景に浮かぶ中之島センター（左）

-- 利用者の反応は？

当初は、やはり不慣れなせいか戸惑いも多く、即座にお客様の目的に応じた対応ができずご迷惑をかけました。こちらも日々勉強で、逆にお客様に大阪大学の歴史などを教わることもありました。少しでも居心地のよいひと時を提供させていただこうと、接遇の研修などを重ねるうちに少しずつ理解もでき、自信も出てきました。

近隣の施設の中で、低廉な価格でこれだけの設備を完備しているところはなく、またコンシェルジェによる笑顔の対応は、学内だけではなく、学外の方々にも評判がかなりいいですね。

最近は、利用者の皆様も笑顔で帰られることが多くなりました。「ありがとう、また寄せてもらいます」この一言で1日の疲れが吹っ飛びます。



システム・ソムリエの橋本さん

■ 大阪大学発展のために

-- これからの中之島センターの担う使命、役割とは？

法人化と同時に設置されたセンターですので、やはり法人化のメリットを最大限活かした運営が大事だと思います。そのために我々スタッフは今後も積極的にイベント等の企画を出していきたいと考えています。特に今後はオリジナルビジネスの有効活用も念頭に置き、大学の様々な制度の規制緩和を見据えつつ、できる限りの知恵を絞っていききたいと考えています。

また、4月から「中之島まちみらい協議会」の正式構成員にもなり、梅田北ヤードや彩都などと連携しながら、都市再生プロジェクトの中でも、大阪大学の役割をアピールしていきたいとも思っています。

この界限は、向かいに朝日放送の新社屋ができ、また中之島新線が平成20年度には開通する予定です。最寄り駅ができることに伴い、人の流れも大きく変わることが予想されますので、大阪大学の名前を大きくアピールすることができ、また大きなビジネスチャンスであるとも考えています。大学の理念の実現に精一杯努力したいと思っています。

<コメント>

インタビューの間も、ミニコンサートのアイデアや遠隔講義等で利用した映像等データのライブラリ化、スタジオ機能の充実を図ることによるサービスの展開など、様々なアイデアを説明していただきました。

大阪大学のイメージアップにつながるよう期待したいと思います。



■ 利用者のニーズ

-- 学外の利用者も増加。

まずお客様の第一声が「阪大以外でも利用できますか」と訪ねられることが多いですね。積極的に学外にも目を向け宣伝していきたいと考えています。一度利用していただくと大変好評で、リピーターは多いのです。

最近では、企業の勉強会やセミナーなども増加してきました。また、2階のカフェテリア「スコラ」には、近隣企業のOLの皆さんがランチに大勢来られます。中之島地区の穴場のレストランとして、口コミで広まっているようです。10階の佐治敬三メモリアルホールでも、ミニコンサートなどができるといいなと思っているんです。



1階フロアのソフトドリンクケータリングコーナー。コーヒー等飲み物のサービスもあり、各種広報誌や展示物をゆっくりとご覧いただけます。



制服を一新、装いも新たな男性スタッフ。(右端が岸総支配人)

大阪大学中之島センター TEL 06-6444-2100

<http://www.onc.osaka-u.ac.jp/>

国際教育交流担当職員 長期研修プログラム(LEAP)を終えて

研究推進・国際部国際交流課国際交流企画係 矢 田 昌 子

みなさん、こんにちは。この3月末に1年間にわたる米国での研修を終え、4月より国際交流課に勤務している矢田と申します。前半(4月～10月中旬)はモンタナ州ボーズマンで、後半はカリフォルニア州パークレーで研修を行いました。本誌 No.86(2005年12月発行)でモンタナでの研修について紹介させていただきましたので、今回はカリフォルニアでの研修について報告させていただきます。

■ LEAP について

まず、以前の海外レポートを読んでいない方もおられると思いますので、プログラムの概要について、少し説明させていただきます。LEAP(リーブ)は Long-term Educational Administrators Program for International Exchange の略で、大学等職員を対象に各機関の国際競争力強化と職員の資質向上を図ることを目的に文部科学省が行っている事業です。米国に1年間滞在し、語学研修を行うとともに、講義や米国大学の国際関係業務オフィスでのインターンシップを通して米国の高等教育システムについて学びます。なお、渡米前年度は文部科学省国際関係部署に勤務することになっており、実質2年間の研修です。

■ いざ、カリフォルニアへ

10月中旬、半年間一緒に過ごしてきた他の研修生と離れ、新生活への期待を胸にパークレーへ移動しました。後半の研修先は、University of California, Berkeley(カリフォルニア大学パークレー校)で、ここを希望した理由は二つありました。第一は、UCが本学との大学間協定締結校であり、かつ本学海外拠点がサンフランシスコあることから、米国と日本といった大枠ではなく、UCと阪大に絞った調査ができるのではと思ったからです。なお、研修先候補大学リストの中には、UC Berkeley と UC Davis の UC の二つのキャンパスがありましたが、語学研修の実施等、より繋がりが強いパークレー校を第一希望としました。第二は、その気候です。私はどちらかという出不精な方なので、寒いところに行ってはその出不精に拍車がかかると思い、西海岸を希望しました。ロサンゼルスほど温暖ではありませんが、最も寒い時でもフリースで乗り切れました。

■ UC Berkeley & SISS について

カリフォルニア大学(UC)は、カリフォルニア州の公



UC Berkeley のシンボル Sather Tower

教育システムのトップに位置する総合大学で10個のキャンパスを有します。新入生を受け入れる5つのCollege(学部)と入学に必要な課程を2年以上受講した者のみが入学できる9個のSchool(専門学部)があり、うちビジネススクールが有名です。なお、10個のキャンパスのうちパークレー校は最初に設立されたもので、カリフォルニア大学の原点であるという気持ちからか、UCBではなくCalと呼ばれています。

私の受入れオフィスは、Services for International Students and Scholars(SISS)で、ビザの取得・更新等の手続きや相談、オリエンテーションの実施が主要業務です。ディレクターの下に、学生担当アドバイザー2名、研究者担当アドバイザー2名、移民ビザ担当スペシャリスト、就労ビザ担当アドバイザー、SEVIS*コーディネーター、プログラマー、アシスタント数名、学生アルバイト(4名が交代勤務)等、約20名が働いています。SISSでは、ドロップイン(drop in)と呼ばれる時間帯(平日10時～12時、13時～16時)を設定しており、予約無しに先着順でその日担当のアドバイザーに相談することができます。学生アドバイザー及びSEVISコーディネーターの3名うち1名が半日単位でローテーションし対応しています。アドバイザー個人では判断

が難しい事例については週一度の学生アドバイザーミーティングで対処方法が議論されます。なお、出入国に関する法令は包括的なものが多く、オフィス内での解釈（運用）上の統一が図られなければ、相談者に不利益（強制退去等）が生じる事態にもなりかねず、アドバイザーミーティングではこの法令の解釈に時間を多く費やしていました。ドロップインには、午前中のみで10名以上が相談に来ることもあり、かつその相談内容にも非常に神経を使うものが多いにもかかわらず、絶え間なく続く相談者ににこやかに対応しているアドバイザーの姿が印象的でした。

* Student and Exchange Visitor Information System の略で、2004年の9/11テロ後に国土安全保障省により導入された留学生や外国人研究生の出入国を管理するためのシステム。



スーパーバイザーと（SISSにて）

■ SISSでのインターンシップ

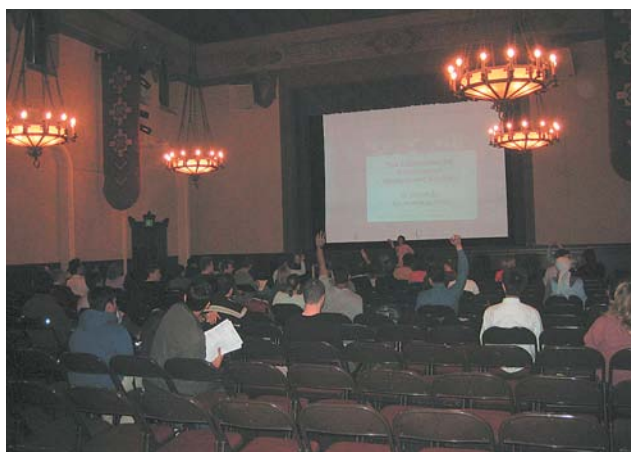
インターンシップの時間は、月曜～金曜まで8時半～17時半で、各種ミーティング出席、オリエンテーション、ワークショップの準備及び傍聴、ウェブ及びインタビューによるリサーチを行いました。

ミーティングは、スタッフミーティング（隔週月曜）、学生担当アドバイザーミーティング（毎週火曜）及びアドバイザー全体ミーティング（毎週木曜）が主で、ドロップインが始まる前（9時～10時）に行われました。スタッフミーティングには、学生アルバイトを除く全員が参加し、普段は1階と2階に別れて勤務しているスタッフが一同に会し、オフィス全体に関わる事項の議論や先2週間における各人の業務予定や目標の発表を行います。アドバイザーミーティングはより専門的な会議で、個別事例の対処方法や各自が入手した情報の提供等を行います。リスニング力不足及び多用される略語の多さから会話を理解するのは容易ではなかったので、ミーティング後にスタッフに質問し、その日のミーティング内容はその日に理解するよう努めました。

オリエンテーション等については、準備は会場案内用の

サイン作りや資料のセット、当日の受付の手伝いを少し行ったのみで、傍聴が主でした。アドバイザー達は、SISSで働く以前も他大学でアドバイザーとして勤務していたという人が多く、パワーポイントを使用したプレゼンも慣れたものでした。

最後に、ウェブ及びインタビューによるリサーチですが、学生留学プログラム、同窓会組織、資金（寄付金）集めをテーマに行いました。ウェブリサーチをする際、UC Berkeleyのみならず、本学ホームページもよく見ました。渡米以前は業務に追われ、ホームページをほとんど見ていなかったため、大学について再度学びたい機会となりました。また、英語での1対1のインタビューは、英語力や自分の知識不足から難しいものでしたが、それだけに貴重な経験となりました。インタビュー先は、カリフォルニア大学共通の留学制度担当バークレー校オフィス、バークレー校同窓会組織、バークレーキャンパスで共有されている同窓生及び寄付者のデータシステムを管理しているオフィス、そしてバークレー校の国際交流担当オフィス等で、12月に2回、2月に3回行いました。調べたいテーマについて、質問を準備するのみならず、比較説明するあるいは逆に質問された場合のために本学の状況を調べておく必要があり、1回1時間のインタビューのために最低2週間の準備期間を必要としました。最初は大学ホームページから調べるのですが、過去に国際関係業務に従事したことがなかったためイメージがわきにくく、国際交流課、学生交流推進課、企画推進室等の方々にメールで教えていただいたりもしました。インタビュー開始当初は言葉のキャッチボールではなく私の一方的な質問攻勢になっていたのですが、回数を重ねるにつれて度胸もでき、かつ事前準備の内容も的を得てきて、インタビューらしくなっていたように思います。



Tax Workshopの風景

■ IASでのインターンシップ

2月末にバークレー校の国際交流担当部署であるIAS（International and Area Studies）にインタビューに行った

際、インターンシップをしてもいいと言われ、3月に4日間（トータルで約10時間）IASでもインターンシップを行いました。IASは研究・教育・サービスという様々な分野のユニットの統括組織であり、研究においてはInstitute of East Asian Studiesのような地域研究ユニットを有し、教育に関しては学部学生及び大学院学生向けの分野横断的なディグリープログラムを提供しています。また、サービスにおいては、UCシステムワイドの学生交流プログラム担当オフィスやSISS等を管轄し、国際的なサービスを提供しています。

また、統括業務のみならず、IAS独自のプロジェクトも進めており、その1つが2005年秋にスタートしたBerkeley China Initiative (BCI)と呼ばれるものです。これは、バークレー校の各カレッジやスクール、その他学内組織がそれぞれ有する中国に関するリソースを学問分野や専門を越えて集め、中国に関する教育研究の強化やパートナーシップの構築を図るというものです。総額3,000万ドルの寄付を3～5年で集めることを目標とし、集められた寄付金は奨学金や研究補助等に使われます。私は本プロジェクトについて担当者に質問したり、3月初旬に開催された会議の参加者のデータ入力等を行いました。IASでのインターンシップは非常に短いものでしたが、2月のインタビューで学んだテーマ（同窓会、寄付、キャンパスワイドの同窓生・寄付者データシステム）と関連することが多く、インタビューの内容をより深く理解するうえで非常に有意義なものでした。

■ NAFSA 地域会合及び北カリフォルニア地域会合出席

バークレー移動後、NAFSA (Association of International Educators: ナフサ) 関連の会議に2回出席しました。一つ目が地域会合で、11月9日～11日にコロラド州で開催されました。NAFSAでは、数州毎に地域分けがなされており、10月～11月頃にかけて地域毎に会合が行われます。私は本来カリフォルニア州が属する地域の会合に出席すべきところ、バークレー到着時にその会合が既に終了していたことから、モンタナ州が属する地域の会合に出席しました。

二つ目は、バークレーでの研修最終日である3月17日に、バークレー校キャンパス内において開催された北カリフォルニア地域会合です。本会合では、留学生のビザ、International Education Weekにおける各機関の取り組み、奨学金制度等についての発表及び活発な質疑応答が行われました。私の英語力も当初に比べるとかなり改善されており、発表や質疑応答の内容を理解することができ、最後にしてようやく、本当の意味で会議に出席したと思えました。また、この会合参加者はお互い顔見知りが多く、和やかな雰囲気の中で終始進みました。その雰囲気の中で私も公私問わず色々な大学の方と名刺交換をさせていただき、サ

ンフランシスコオフィスのことを中心に本学のPRをしました。

■ サンフランシスコ教育研究センター

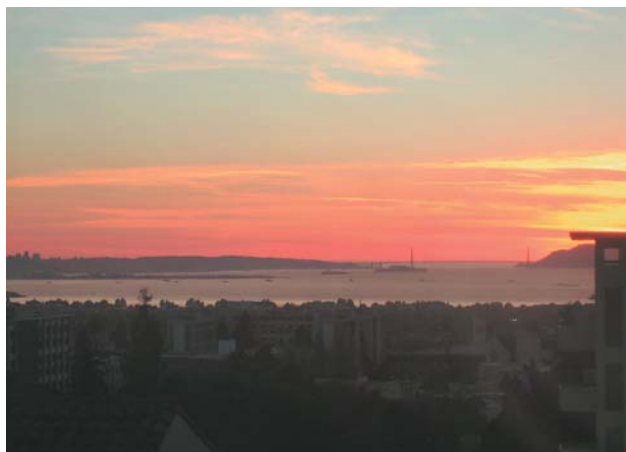
バークレーでの研修中、本学サンフランシスコ教育研究センター主催のセミナー等に参加し、手伝い（設営・受付）をさせていただきました。後半の研修先を選ぶうえで、本センターの存在が関係していたことは上述しましたが、私にとって予想以上の効果がありました。10月のナノテクノロジーに関するセミナーや1月の北米地区同窓会を通して、センターの活動をほんの一部ですが実際に学ぶことができました。また、日本にいれば話をすることがなかったかもしれない阪大内外の様々な立場の方と話をさせていただき、刺激を受けました。今後、人間的にもっと成長していかなければならないと強く感じました。



サンフランシスコ教育研究センターにて

■ バークレーでの生活

バークレーでの生活は快適でした。住居からパート（地下鉄）の駅までは徒歩でも行けますし、バスもあります。私は運度不足解消も兼ねて、昼間は歩くようにしてしまし



I-House 室内より望む夕焼け

た。サンフランシスコまでパートで約30分、サンフランシスコほど人が溢れておらず、でもモンタナ州ほど田舎でもなく、適度な地味さ加減が好きでした。

住居ですが、キャンパスの端にある、International House（以下、I-House）に住んでいました。パークレーの学生（junior year 以上の学部生、大学院生）及び研究者、アメリカ人・その他外国人合わせて約600名が住んでいます。I-House は単なる寮ではなく、草の根の国際交流促進を目的としており、異文化交流に関心があることが入居の重要な条件です。各部屋にキッチンはなく共有ダイニングで食事を取ることで日々交流が図られます。また自国の文化や料理を住人が紹介するコーヒーアワー等、各種交流イベントも毎日のように企画されています。

その他、週2回の語学学校や、週1回のフラメンコ教室に通いました。語学学校は、講師の教え方が非常に上手く、中でも外国人の英語がネイティブスピーカーにすぐ理解してもらえない理由が何なのか、様々な観点から教えてもらえ非常にありがたいものでした。

フラメンコ教室は、「楽しみながら学ぶ」とはこのことをいうのでしょうか。最初は先生の指導内容がさっぱり聞き取れませんでした。レッスンについていくため集中して聞き続けました。その結果、3月頃にはかなり聞き取れるようになりました。

■ ワシントン DC での研修最終プログラム

3月25日にワシントン DC で半年振りに研修生全員が集合し、その後プログラム評価ミーティング、TOEFL 受験、教育関係機関の訪問を3日間のスケジュールで行いました。訪問先は教育省、国務省等政府関係機関と NAFSA、ACE（Center for International Initiatives）等の NPO であり、業務（事業）内容について説明を受けるとともに、質疑応答



フルブライト夫人とともに



研修修了書授与後研修生とともに（帰国前夜）

を行いました。どの訪問先も LEAP プログラムに参加しているからこそ訪問できるものばかりであり、大変意義深いものでした。また、フルブライトプログラムの設立者である故フルブライト上院議員夫人とお会いする機会もあり、非常に感激しました。フルブライト氏の遺志を引き継ぎ、人の交流の推進のため今後もご尽力されており、その温厚な外見と国際交流について話をされる時の力強い語り口はとても印象的でした。

■ 最後に

この2年間の研修中の日々は非常に充実したものであり、語学や国際交流に関する知識等多くのことを学びました。一方で、後悔することのないよう日々思索しながら過ごしてきたつもりですが、渡米前にもう少し英語力を上げておくべきだった、もっと深く掘り下げて調べるべきであった等、研修が終わりに近づけば近づくほど反省することも沢山出てきました。その一連の経過を経て得たことの中で一番重要なことは、2年間の研修、特に米国での研修を通して、国際交流に携わる職員としての土台のようなものを構築できたことだと思っています。この“土台”が具体的に何を意味するのか、適当な言葉が見当たりませんが、本研修に参加していなければ構築できてなかったであろうことは間違いありません。研修は終了しましたが、終了によって今後の業務のスタート地点に立ったに過ぎません。英語はもちろん、その他様々なことを貪欲に学びつつ、業務に励んでいくつもりです。

最後になりましたが、2年半前に本研修への参加を勧めてくださった方々、2年間という長期の研修にもかかわらず快く送り出して下さった総務課の皆様、そして研修中にいろいろとお力を貸していただいた皆様にこの場を借りて心から御礼を申し上げます。

クラブ&サークル紹介

弓 道 部

礼に始まり、礼に終わる、それが「弓の道」

皆さんは「弓道」というスポーツにどのような印象を抱いていますか？精神面を鍛えてそう、厳しそう、強そう... などなど、さまざまだと思います。

武道は日本人の「ものの考え方」や「行動の仕方」が内在する運動として取り組まれて来ました。特に、日本弓道は、礼儀を重んじ、精神統一をして、一本の矢を的に通わせる精神修養的要素を持った武道です。

他のスポーツとは異なり、相手がなくてもできるという特異な運動で、しかも、年齢、性別、体力を問わずに練習が始められるスポーツです。

弓道は、「礼の道」、「仁の道」。礼に始まり、礼に終わるのが「弓の道」、射は自分自身を正しくする道なのです。

「射は己自身の中に正しきを求めるものである、己正しければ、心清しき」

さて、我々阪大弓道部の普段の練習は、各自が来れる時に来て引きたいだけ引く、という自主練習という形式です。授業のない時間に来てもよし！放課後に来てもよし！夏には夜通し引いて道場で朝日を拝むもよし！です。

また、昨年五月に新しく師範をお迎えし、土曜日の全体



練習の際には、指導していただいております。

阪大弓道部は大学から始める人が多く、部員の3分の2程度は大学から始めています。大学から始めて全国大会に出場された先輩もいらっしゃいます。初心者からでも、やる気と根性があれば、だれでも上達できます！

現在、関西学生弓道連盟に所属しており、男女ともに3部リーグに所属しています。秋に行われるリーグ戦でのリーグ昇格を目指し、日々奮闘しています。

初心者でも楽しく、かつ真剣にうちこめる弓道。短い大学生活を充実させられること、間違いなしです！

主将 横田 大介(工・応理3年)

コメント

一人で引いて、心を澄ますもよし。皆で引いて、熱くなるもよし。
みなさん、弓引いてみませんか？



練習場所：知静堂（豊中キャンパス）

志在館（吹田キャンパス）

練習日時：月～金 個人練習

土 全体練習 9:30～（@ 志在館）

部員数：男 46人 女 15人

連絡先：黒川育代 (kuro_iku@hotmail.com)

弓道部 URL：http://www61.tok2.com/home/handaikyudo/

編集後記

天気にも恵まれた4月30日、「第1回大阪大学ホームカミングデイ」が開催されました。卒業生や教職員OBに、進化し続ける「今」の大阪大学の姿を見ていただくこのイベントには、多くの方がご参加されました。旧交を温めつつ、会場であるイ号館の変わらぬ佇まいを見て「昔」に思いを馳せ、装いを一新した阪大坂や学生交流棟に阪大の「今」を感じる、そんなひとときを過ごされていたように思います。

本誌も今月号では、ナウススペシャル「阪大坂の古墳」や名誉教授リレー随想で豊中キャンパスの「昔」を、クローズアップでは新規融合領域である臨床医工学・情報科学分野を開拓・確立していく臨床医工学融合研究教育センターを紹介しています。今後も、阪大の「NOW」だけではなく、長き歴史や進みゆく未来についても随時紹介していきます。

(瀬尾)

学生交流棟カフェ&レストラン「宙(sora)」



豊中キャンパス学生交流棟1階に平成17年4月新設されたカフェレストラン。

中山池をはじめ周りの木々を眺め、明るい日差しを浴びながらの食事も好評。座席数は、食堂コーナーと喫茶コーナーと合わせ500席を超える。

「200名を超えるレセプションでも十分利用できます。最近では、キャンパス内で開催される学会などにもよく利用していただき、また、今年の七大戦でも利用していただく予定です」と店長の仲井さん。多数のパーティーメニューも用意されており、予算等に応じいつでも相談に乗ってもらえる。

食堂メニューも豊富でかつ安価。これからのシーズン「冷たい生ビール」が置いてあるのも魅力かも…。

(未成年の人達は今しばらく我慢!!)



営業時間：8時30分～20時00分(10時までは朝食メニュー)

定休日：日曜・祝日・年末年始(土曜も営業)

問い合わせ先：06 - 6846 - 8127

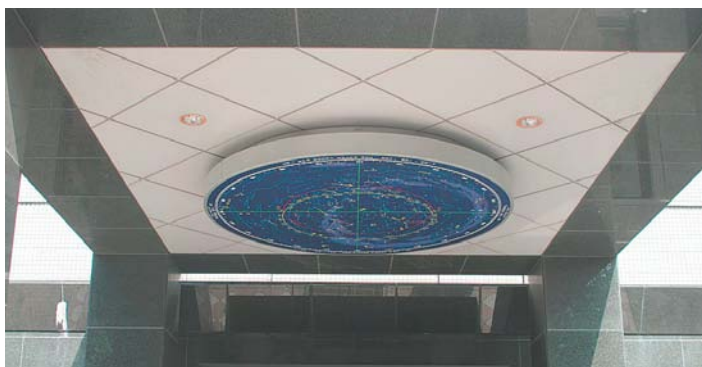
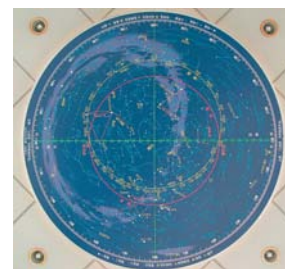


星座が瞬く天空図が出迎え!

豊中キャンパスの正門を入るとすぐ右に見える建物、それが理学研究科の宇宙地球科学棟(F棟)です。

建物の入り口、正面エントランスの天井に直径約3mの天空図が描かれています。夜になると照明の効果で宇宙を一層実感できます。

訪れる人々が思わず見上げ、自分の星座を探し、心にある人の星座を探す。宇宙に夢を馳せ、宇宙が身近になる、そんな一歩を踏み出す入り口です。



交流協定大学紹介

慶尚大学校(大韓民国)

GYEONGSANG NATIONAL UNIVERSITY



慶尚大学校正門と付属図書館

慶尚大学校は、慶尚南道の晋州に3つのキャンパスを展開する、教授数750名、学生数20,000名の総合大学です。1948年に晋州農科大学として設立され、現在、11の学部(人文、社会科学、法律、教育、経営、自然科学、農業・生命、工科、医学、獣医学、海洋)と、7つの一般大学院(人文社会、自然科学、工学、芸術・体育、医学、学科間協同、産学協同)、6つの特殊(専門)大学院(行政、教育、産業、情報科学、生命環

境、経営) 17の研究所を持っています。特に植物バイオテクノロジーなどの生命科学分野、航空機械工学分野においては、韓国内における中核的研究拠点と位置づけられています。

大阪大学は、産業科学研究所と慶尚大学校の工科大学、工学研究科と慶尚大学校の環境及び植物バイオテクノロジー研究センターとの部局間協定を結んでいましたが、2005年9月に、大学間の学術交流協定に発展しました。これにより、全学レベルでの研究者の交流、情報・資料の交換の基盤が整備され、授業料相互不徴収による1年以内の学生の交換も可能となりました。これまで、本学教員の現地での講演・集中講義、現地研究者との共同研究等が実施され、今後は、生物工学や環境工学、さらに、材料工学、情報工学、電子工学等の分野を中心とした教育・研究活動の交流が予定されているとともに、学生の相互交流も期待されています。



慶尚大学校本部

所在地 : #900 Kajoa-Dong,
Jinju, Republic of Korea
<http://www.gsnu.ac.kr/>

阪大NOW No.90 2006 6月号

2006年6月20日発行

編集・発行 大阪大学総務部評価・広報課 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-1
TEL : 06 (6879) 7017 FAX : 06 (6879) 7166
ホームページアドレス <http://www.osaka-u.ac.jp>

「阪大NOW」へのご意見、お問い合わせ、記事の提供等がありましたら、下記までお寄せ下さい。
E-mail : souhyokoukohou@ns.jim.osaka-u.ac.jp